

MAGIC OF THE FUTURE

AN INTRODUCTION TO THIRD
MILLENNIUM SCIENCE OF MAGIC
IN SIX LESSONS

BY

KARL HANS WELZ

Copyright 1995 by Karl Hans Welz

This course may not be reproduced in whole
or in part by any means without prior
permission in writing from
the author. Address queries to: HSCTI,
Box 666 033, Marietta, GA 30066

MAGIC OF THE FUTURE

AN INTRODUCTION TO THIRD
MILLENNIUM SCIENCE OF MAGIC
IN SIX LESSONS

BY

KARL HANS WELZ

(六册合本)

Copyright 1995 by Karl Hans Welz
This course may not be reproduced in whole
or in part by any means without prior
permission in writing from
the author. Address queries to: HSCTI,
Box 666 033, Marietta, GA 30066

MAGIC OF THE FUTURE

AN INTRODUCTION TO THIRD
MILLENNIUM SCIENCE OF MAGIC
IN SIX LESSONS

BY

KARL HANS WELZ

Lesson I

Copyright 1995 by Karl Hans Welz
This course may not be reproduced in whole
or in part by any means without prior
permission in writing from
the author. Address queries to: HSCTI,
Box 666 033, Marietta, GA 30066

第1課

イントロダクション

W e l c o m e !

この冊子は、「魔術」に関する単なる新手の入門書というわけでもないし、市場で多くみかける、10ページから20ページ程度、生命の木の説明があり、魔術の霊性、洗練された魔術儀式などが、紹介されている「走り書き」された本でもない。

魔術は、生命の木の発明以前から、長く存在していたのだ。事実、我々の惑星における強力な魔術師のほとんどは、生命の木の存在にさえ気づいていなかったのだ。このような「知識不足」が、彼らの力の妨げには全くならなかつたのである。魔術における原理のいくつかは、宗教的な教義を超越したものであることは明白だ。あらゆる魔術の共通機能原理（CEP）から発達させることができる魔術体系が存在するに違いない。魔術を生命の木を等しいものであると考えたり、他の宗教的信条から生まれたものを魔術と考えたりすることは、地図と領域をあやまって同一化してしまうことにつながりかねない。地図は、決してそれが示す領域（場所）ではないのだ。いかに最初は、その地図が有用であつてさえも、このような同一化は、つねに間違っている。生命の木に根ざした魔術体系は、有用であつたし、また、ある程度まで、包括的である。しかし、世界がイコール生命の木ではないのだ。生命の木は、ただ魔術師にとって役に立つ地図のひとつにすぎないのである。

現在、魔術技法は、飛躍的に発達し、また同時に、魔術を学ぶ者も、幅広く魔術体系や伝統にアクセスし、実践している。その体系のほとんどは、ユダヤ・キリスト教的な宗教から発生したものでもなく、カ

バラのシステムや生命の木の世界とコンパチブルなものではない。しかし、等しく、強力であり、少なくとも、等しく霊的である。生命の木や他のあらゆる宗教的な地図化も、科学的な基礎に基づいて魔術を实践する第三世代の魔術師にとっては、とりたてて有効性が高いというわけではないというのが私の意見だ。魔術科学の真の形態は、科学的なもので、今日まで考えられているような宗教的なものではない。古き時代においては、魔術は、禁止されており、宗教は、それを隠蔽するために用いられてきた。しかし、現在では、意味のないことだ。なぜそうなのかということはこの講座で述べていきたい。

この講座の目的は、あらゆる既存の魔術体系の共通機能原理へと導くことにある。これは、魔術実践と特定の宗教教義との間の仮定されたつながりを超越する現代的なアプローチである。これにより、あらゆる既知の魔術形態の根底にあるプロセスを科学的に理解することが可能となるのだ。それにより、ひとつのものが、文化によって様々な宗教的装いをなしていることが理解され、強力な魔術師たるためには、このような宗教的な「みかけ」は、全く必要ないことに気づくだろう。車で出かけるとき、主の祈りを唱えたり、聖なるマントラを108回唱えるのも自由であるが、私の意見としては、イグニッション・キーを回すだけで、車のエンジンを始動させることができるだろうと思われるのだ。同様のことは、あらゆる魔術実践に言える。魔術の科学的な原理がわかってしまえば、それを取り巻く宗教的なものに基づいた「儀式」を行わずとも、いかなる環境においてもそれを行うことができるのだ。

このような伝統的、宗教的な装いに縛られることなく自由に魔術を实践することには、別の利点もある。思考の自由が生まれるため、常に新しい、より強力な魔術に向かうことができるということだ。伝統や宗教が、科学の進歩、発展の妨げになることはよくあるもので、伝統や真伝、絶対に正しい本への信仰も、しばしば、新しい考えを拒絶

させ、そのような考えをもつ人々の組織的な抹殺へと向かうものだ。新たな創意により、新たな道が、より有益な、あるいは、より悪いものであることが証明され、人々の思考を自由にするならば、伝統は、「以前と同様に安穩として」生きのびることはできないだろう。典型的に創造性が欠落している伝統主義者が、ほとんどつねに、進歩に対して悪意をむき出しにする原因である。自己の魔術的技量を極限まで発達させることを欲するならば、伝統があなたに着せた拘束着を脱ぎ捨てるべきだろう。

この講座の目的は、魔術実践に対する科学的な理解と実践に役立つガイドを与えることにある。

魔術とは何か？

私は、あなたに、すぐにこの言葉の明確な定義をするようにと重い課題をかすつもりはない。魔術という言葉は、私たちは、変化をもたらすために用いることができる特定のレベルの行為であると述べることができる。次に、どんなタイプの実践が魔術の定義のもとに入るのか、その実践の構成要素を調べていくことにしよう。ここから、初歩の理論、地図を発達させていくことにする。これにより、様々な魔術的テクノロジー、魔術理論の理解が容易になり、自己の魔術的技術の発達にも役立つはずだ。

「魔術」、「魔法」と呼ばれている良く知られた技法のいくつかについて考えてみよう。

事例1. 人を癒すための魔法：治療を求める人から、髪の毛を7本抜く。活力にあふれた樹木に穴をあけ、その穴のなかに7本の髪の毛を入れる。そして、その穴を同じ木の木切れでうめる。すると、その人は、元気になるだろう。

事例2. 「魔法医」は、人形をつくる。そして、そのなかに、ターゲットの髪の毛や爪、衣服の切れ端を縫いこむ。それから、おそらく、事前に算出された時間に墓場に赴き、人形を埋める。その標的となる人物は、病気にかかり、死ぬことさえあるかもしれない。

事例3. 膿んでいる傷を癒すための魔法：傷から綿棒で膿みを少しとり、硫酸銅のなかに入れる。その傷ははやくなおるだろう。

事例4. キャンドル、お香などを儀式用のテーブルの上に準備する。紙に方陣を描き、そのなかに文字を記す。そして、左側と右側に恋に落ちるようにする人の名前を書く。自分自身の力をそのスクエアに投射し、紙を燃やす。

事例5. ラジオニクスの専門家は、「ブラック・ボックス」、つまり、ラジオニクス装置を用いる。振り子やスティック・パッドを用いて、訴訟を支援するため、レートを設定する。そして、スティック・パッドの上に、その人物の写真を置き、結果が示されるまで、装置を「オン」にしておく。

事例6. カリスマ的な教会では、牧師が、集会で、癒しのための祈りをはじめ。その対象となった人は、夢見るような状態になっている。

遠隔作用

何が、これらの事例には共通しているのか？最初に心に浮かぶのは、次のようなことである。

魔術とは、作業である。

個人のなかでの変化、集団のなかでの変化、状況の変化といった、変化をもたらすことを目的とした作業が魔術である。変化をもたらそうと試みることは、全生命体の特質である。それは、環境との相互作用である。

これらの事例に共通する第二のことは、作業のターゲットが、遠隔にいても効力があらわれるということである。当面は、次のように言うことができる。

「魔術とは、遠隔的に作用する作業である。距離は、魔術的な作業においては関係ない。」

この点において、魔術は、私たちの環境に影響を及ぼす能力を拡大するものであるといえる。

構造的リンク

ここで、第三の重要なファクターについて考えてみよう。どの場合にも、魔術師は、そのターゲットとなる人物をあらわすものを用いる。

事例1：7本の髪の毛

事例2：髪の毛と爪

事例3：傷のなかに存在するのと同じバクテリア

事例4：名前とその人物に対するイメージネーション

事例5：その人物の写真

事例6：治療を行う人の心にあるイメージ

魔術師は、通常、ターゲットをあらわすもの、爪、写真、髪の毛などを「霊的リンク」と呼んでいる。私は、魔術を科学的な言語とするために、「構造的リンク」（構造的結合体）と呼ぶことを好んでいる。構造的リンクは、純粋に物質的なものから、純粋にメンタルなものまで、いかなる形態でも存在しうる。

この六つの事例を分析することで、次のような結論に到達する。すなわち、ターゲットへの構造的リンクを用いることが、魔術作業にとって距離を無関係なものにしているということだ。

魔術は、拡大した世界に、もしくは、遠距離で影響を及ぼす作業である。この作業は、ターゲットへの構造的なリンクの助けによってなされるわけだ。

その作用の性質をいかにして決定するのか？ 前述の事例のそれぞれにおいて、望む作用をあらわすものを見いだすことができる。魔術師が、望む作用をあらわすやり方は、ターゲットに対する構造的リンクを確立する方法と非常に類似している。

事例1．樹木の健全さ

事例2．墓のなかで腐る人形

事例3．硫酸銅のなかで破壊されるバクテリア

事例4．文字の入った方陣

事例5．ラジオニクス装置のセッティング（レート）

事例6：集会の人々の心にある健康のイメージーション

作用の性質は、構造的な表示体によって決定される。これは、魔術的作業において、ふたつの構造的リンクを用いるということを意味している。ひとつは、ターゲットをあらわすもの、もうひとつは、ターゲットに与える作用をあらわすものである。

霊的エネルギー

どうして遠隔作用を及ぼすことが可能なのか？、また、何がその作業の成否を決定するのか？を考えてみよう。それを見いだすためには、効果のあった魔術と効果のでない魔術を比較してみる必要がある。長い年月にわたる魔術師たちの研鑽から、次のふたつの内のどちらかのケースに該当する場合には、魔術が失敗することが判明している。

1. 霊的な防御、障害、干渉が存在する場合
2. 霊的なエネルギーが不十分であった場合

第一のポイントについては、後で論ずることとする。後で、霊的防御と干渉を排除する方法について学ぶことになるだろう。

第二の点については、さらに検討を要する。魔術師がその技を行使するとき、何を行うのかを分析しておきたい。

事例1：魔術師は、何もしない。樹木が力をもっている。

事例2：魔術師が、多くの霊的エネルギーを高揚させなくとも、ターゲットへの構造的リンクがすばらしければ、機能するように思われる。

事例3：霊的エネルギーは、不要。

事例4：魔術師が、非常に多くの霊的エネルギーを発達させ、投射して場合のみ、作用する。

事例5：訓練を受けた魔術師や強く情動的な人物ほど、ラジオニクスで素早く成功をおさめられるように思われる。

事例6：カリスマ的なセッティングにおいては、情動的なパワーが極めて高い。

どの時代の魔術師であれ、成功するためには、強力な霊的エネルギー、すなわち、魔力を発達させることが必要であるとわかっている。構造的リンクがすばらしいものであり、自分以外の源泉から、豊富な霊的エネルギーを得ることができるならば、霊的エネルギーを高揚させる必要はない。魔術師たちは、霊的エネルギー、生命エネルギーが魔術的作業を力あるものとする媒体であることを理解していたのだ。事実、我々の調査では、離れた環境との相互作用なくして生命それ自体が存在しえないことが判明している。すなわち...

魔術なくして生命なし

強力な生体力場が、魔術的な素早い反応を可能にする。ターゲットと結びついた生命エネルギーが強力になればなるほど、ターゲットに対する作用も、より強力なものとなるのだ。あらゆる時代の魔術師がこのことを認識している。

西洋の国々においては、何人かの科学者たちが、このエネルギーに関するモデルを構築してきている。彼らが発達させたモデルは、その時代の知識に同調したものだ。このような科学的モデルには、多くの

利点があり、また、さらに、優れた科学理論から新たなテクノロジーを発達させることができる。この事実は、魔術にとっても、また、化学や物理学にとっても、価値あるものである。

魔術師たちは、生命エネルギーが、その魔術作業を効力あるものとするに不可欠であることを認識してきた。彼らは、「直感的に」それをわかっていたのだ。というのも、通常、魔術師は、それを感じることができるからだ。長き年月に渡る体験から、このエネルギーによる強力な力場を発達させるための多くの技法を用いてきた。これらの技法のなかには、生贄や、性魔術、強力な情動的な高揚、呪文を唱えるなどの行為がある。私達が発明したEPGなどのジェネレーターは、この力を継続的に、しかも、強力に発生させることを可能にしたものであるのだ。

いまや、私達は、魔術を次のように定義することができる。

「魔術とは、構造的リンクと生命エネルギーの助けにより、ターゲットに影響を及ぼすものである」

「さらに、術者とターゲットとの間の距離は無関係で、重要なことは、生命エネルギーの強さと構造的リンクの正確さである。」

私達が魔術を理解するために必要な最初のことは、その基本要素に取り組むことである。これは、生命エネルギーの特徴と構造的リンクの性質を学ぶ必要があるということである。次に、生命エネルギーを引き上げ、構造的リンクを確立する技法を学ぶ必要がある。このような理解によって、我々は、いかなる種類の魔術でも行うことが可能になるのである。このような理解によって、魔術を、神秘的な宗教のなかの技としてというよりは、むしろ、技術的なシステムとしてみるこ

とができるのである。

生命エネルギーと構造的なリンクについての基本的な理解を発達させた後で、感覚器官のレンジを拡大する方向で進む。これにより、魔術的作業の影響力に同調することが可能となるだろう。「盲目的に」何かを行うよりは、ターゲットを「見た」方がよいのは当然だ。我々の魔術作業において同調することが可能であるということは、実践の間、魔術作業の与えるインパクトを知る力が得られるということである。

□

MAGIC OF THE FUTURE

AN INTRODUCTION TO THIRD
MILLENNIUM SCIENCE OF MAGIC
IN SIX LESSONS

BY

KARL HANS WELZ

Lesson II

Copyright 1995 by Karl Hans Welz
This course may not be reproduced in whole
or in part by any means without prior
permission in writing from
the author. Address queries to: HSCTI,
Box 666 033, Marietta, GA 30066

第2課

生命エネルギー

最初のレッスンのなかで、生命エネルギー、ライフ・フォースが、いかなる魔術作業においても、欠かすことができないものであり、構造的リンクによる伝達を可能とする「媒体」であることが理解できたことと思う。いつの時代の魔術師もこのことを心得ている。彼らは、生命エネルギーを活用するための技法を教示してきた。そして、その技法は、宗教的な実践のなかに織り込まれ、多くの人々は、魔術技法の本質を理解することができなくなってしまった。そして、彼らは、原生命エネルギーのあらわれと、それを顕現させるための特定の儀式とを同一視してしまったのだ。その結果、宗教的な儀式が、「奇跡」を引き起こしたのだと考えてしまったのもごく自然なことだ。そこから、そのような彼らの特定の儀式のみが、そうした奇跡を引き起こせるのだという誤った思考にいたるのは、不自然なことではない。そして、もし、他の宗教において奇跡が生じたならば、それは、彼らの宗教に対抗する存在の仕業として、例えば、キリスト教と悪魔のように、論理的に解釈した。そして、「奇跡」は、もはや応用技術の結果として生じるものではなく、特定の信条のもとでのみ顕現することになっていくのだ。そして、その奇跡がおきた理由は、宗教的な教義のなかでのみ見いだされることになる。それは、傲慢なアカデミックな態度と大差ないものである。

科学的な方法論のなかで思考することを学んだ魔術師にとって、生命エネルギーは、新たな重要性を帯びることになるのだ。科学的に思考することで、技術を応用する際に、本当におこなわれていることを理解することができる。それにより、試行錯誤の体験から発達した技術を説明するために用いることができる地図を手にすることができる

のだ。科学的な思考の助けをかりて行う地図化は、私達が新たなテクノロジーを見いだす助けとなるものだ。

この課では、原霊力、生命エネルギーをさらに探求していくことにしよう。

ネガティブ・エントロピーの概念

生命エネルギーは、ネガティブ・エントロピーに従う

ヴィルヘルム・ライヒの調査研究は、生命エネルギーの特徴を科学的に理解する上で大きな一歩であるといえる。というのも、ヴィルヘルム・ライヒは、生命エネルギーが、ネガティブ・エントロピーに従うことを認識した最初の科学者であるからだ。この原理を理解するために、エントロピーについて説明しておこう。エントロピーは、物理学で登場する用語である。異なったポテンシャルをもつふたつのエネルギー体系が接触し、ある時間が経過すると、同じポテンシャルとなるということが観察されてきた。私達は、これをバランス・エントロピーの確立と呼んでいる。例えば、熱いものと冷たいものを一緒にしておくと、結局は、同じ温度になるということだ。物理学者たちが、観察してきたことは、もろろん、電磁気的な性質をもったものについてのことである。平均的なアカデミックな物理学者は、まだ、生命エネルギーに対して悪意を抱いているのだ。

一方、生命エネルギーは、逆に作用する。もし、高い生命エネルギーのポテンシャルをもつものと、低いポテンシャルのものを接触させると、高いポテンシャルをもつものは、低いポテンシャルをもつものから、さらに力をひきだし、高いものは、より高くなるのだ。

ヴィルヘルム・ライヒは、さらに次のようなことを見いだした。すなわち、有機体は、オルゴン・エネルギーを引き寄せ、保持するが、

金属は、引き寄せ、すぐに反発するというものだ。このふたつの原理から、彼は、オルゴン・アキュムレーターを考案した。

また、彼は、オルゴンのバリエーションを発見し、それを死のオルゴン・エネルギー、DORと呼んだ。生命に有害なDORの雲を排除するために、クラウド・バスターを用いた。

ライヒの死後、40年あまりの間、オルゴン物理学の世界では目覚ましいことはなかった。イスラエル・リガルディーのような魔術師は、オルゴン物理学の知識が、魔術研究には、有益であることを理解しており、正しい洞察をもっていたが、伝統主義者であるため、それを越えていくことができなかった。また、ライヒ信奉者のほとんどは、雲破碎実験やオルゴン・アキュムレーターの製作で満足していた。彼らは、ライヒの恩恵は、広範な新たな技術分野をひらくものであることを見逃していたのだ。

生命エネルギーとマインド

魔術師たちは、長き年月にわたって、生命エネルギーを用いてきたが、ネガティブ・エントロピーの原理に気づいてはいなかった。これは、かなり驚くべきことである、なぜなら、ネガティブ・エントロピーこそが、魔術を効力あるものとする生命エネルギーの性質であるからだ。

この生命エネルギーには、もうひとつの重要な特徴がある。すなわち、その伝達は、構造的原理にしたがうということだ。構造的な伝達（伝送）、ネガティブ・エントロピーの原理から、マインドにより、生命エネルギーを導くことが可能になるのだ。

この段階で、生命エネルギーに関するいくつかの実験をしておくことが必要であるかもしれない。ここでは、ちょっとした道具とマインドを使うことにしよう。

オルゴン・アキュムレーターとしての「魔法の杖（ワンド）」

ここで、最初の「魔法の」道具を製作することにしよう。これは、単純なオルゴン・アキュムレーターであり、後では、魔法のワンドとしても使用する。

必要な物

1. 30センチ程度の長さの銅かしんちゅうのパイプ。直径は、2～3センチ。
2. アルミニウム製のダクト・テープ
3. 普通のダクト・テープ（プラスチック）

製作方法

パイプには、プラスチックのダクト・テープで巻き（1層）、その上に、アルミニウムのテープ、さらに、プラスチックというように、7層になるまで巻く。さらにそのうえを皮で巻き、体裁を整えてもよい。これで、準備は、完了である。

生命エネルギーを見ること

これは、魔法の実践に絶対的に必要なものではないけれども、生命エネルギーを見ることを学ぶのは、好ましいことだ。

プラクティス#1：目から30センチ程離して、両方の指を接触させ、ゆっくりと離していく。その間に、「紐」のようなものが見る。これには、トレーニングが必要であるかもしれないが、困難なことではない。

プラクティス#2：杖（ワンド）の一方の端を片手でもち、もう一方の手の人差し指で、もう一方の端に触れる。そして、人差し指をゆっくり杖から離していく。そして、「光輝ある」ブリッジ、紐、糸を観察する。実際、目にすることができれば、なぜ私がそれを光輝あると呼んだのか理解できるはずだ。

プラクティス#3：プラクティス#2と同様のことを素早く行う。すなわち、急速に指を杖から10センチ程度離すのだ。これは、指と杖の両方から短い放射を見るチャンスである。そこで、心で命令し、ふたつの短い紐を結びつけ、光輝ある紐となすのだ。これが、心で生命エネルギーを導く、最初の実践である。

生命エネルギーを感じることに

プラクティス#4：杖を手に取り、それを、身体の敏感な部分に向ける。

1. 杖の先を2センチ程離して、手のひらに向け、エネルギーを感じる。
2. 手首に向けて、エネルギーを感じる。
3. 指の一本一本に向けて、エネルギーを感じる。
4. 眉と眉の間の部分に向けて、エネルギーを感じる。
5. 他の身体の場所で試してみる。

ここで得られる感覚は、人それぞれで、ある人は、チリチリした感

じを受け、またある人々は、ちょっと冷たい風のような感じをもつなどである。ほとんどの人は、穏やかな暖かさを感じる。この実験で生じているのは、次のようなことだ。あなたの生命エネルギー場は、杖のエネルギー場よりも、強力である。それ故、あなたは、杖から、生命エネルギーを引き寄せる。そして、この生命エネルギーが、あなたの肉体に入ったとき、神経末端部を刺激するのだ。それが、様々な感覚として感じられるのである。

生命エネルギーを導くこと

さきの実験で生命エネルギーを導くことを行った。ここでの実験をより効果的に行うためには、イメージする能力が必要になる。イメージするものは、何であれ、それは、「構造」であり、生命エネルギーは、時間・空間のひらきよりも、構造的な原理に従うものであるのだ。この生命エネルギーの特徴は、その使用法を学ぶ人々に真に素晴らしいポテンシャルを開示するものである。全魔術科学は、この生命エネルギーの特徴の産物であるのだ。私達のマインドは、連続体のなかで、構造を創造することができるのだ。これが、魔術が、人類の歴史と同じだけ古い歴史をもつと言われるゆえんである。古い時代の人々も既に、出来事が視覚化に従うことを認識していたのだ。

プラクティス#5：吸気の際に、生命エネルギーが左手を通じて身体のなかに入ることをイメージする。そして、呼気するときには、身体の特定の部分に凝縮し、蓄積することをイメージする。身体はその部分に、生命エネルギーを感じるまで、しばらくの間、それを続ける。

プラクティス#6：吸気の間、生命エネルギーが左手を通じて身体に入ってくることをイメージし、呼気するときには、生命エネルギーが右手を通じて出ていくことをイメージする。

プラクティス#7：上記のふたつの実験を様々なバリエーションで行う。

生命エネルギーでのチャージ

プラクティス#8：紙やキャンドル、水の入ったコップ、水晶などを目の前に置き、右手をその上、2～3センチのところにかざす。吸気の間、生命エネルギーが左手を通じて流れ込んでくることをイメージし、呼気の間は、右手からエネルギーが流れ出し、その物体のなかに蓄積されていくことをイメージする。そのようにして、チャージを行う。そして、チャージするのをやめ、手のひらで、その物体のエネルギーを感じる。誰か他の人にやってもらい自分が、感じる。また、その逆を行う確認する。

プラクティス#9：次に、その物体にエネルギーを投射するのではなく、それを包み込むような球体をつくるようにエネルギーを投射する。そして、その球体がどこから始まっているか、パートナーに確認してもらおう。また、パートナーに同様のことを行ってもらい、自分が確認する。

生命エネルギーを人に投射すること

プラクティス#10：右手の指で、相手の眉と眉の間の部分を指し、そのエリアの呼気とともに、生命エネルギーを投射する。

プラクティス#11：腕をのばし、指で、パートナーではなく、どこか別の場所を指さす。そして、同様に呼吸にあわせてエネルギー投射を行うわけであるが、指からのエネルギーがまがって相手の特定の身

体部位に到達するのをイメージする。パートナーにも、同様のことをしてもらおう。

プラクティス#12：適当に快適な姿勢をとり、特に指でどこかをさすことなく、同様のエネルギー投射を行う。

プラクティス#13：魔法の杖を手にとり、パートナーの眉と眉の間の部分を指す。このとき、自分の身体を用いて、エネルギーの放射、吸収を行わない。

プラクティス#14：プラクティス#11のように、他の場所を杖で指し、杖の先からのエネルギーが、パートナーの身体に届くのをイメージする。

これらの実験は、生命エネルギーを心で支配することを学ぶ上で、非常に有効な作業である。これらの実験を繰り返すことは、自分を強くする方法である。

生命エネルギーを発生させること

魔術師は、投射するためのエネルギーを確立する。それは、集団儀式、性魔術実践、犠牲を捧げるなど様々な方法によるものだ。

魔術的な歩法、歩行、ダンスなども、エネルギーを発生させる方法として用いられる。

動物磁気で有名なメスメルは、ある治療のシステムを発達させた。それには、生命エネルギーを発生させる技法も含まれている。

この技法では、エネルギーを視覚化しなくとも、最も必要とされるところにエネルギーが送られる。

魔術師も、生命エネルギーを発生させるために、同様の技法を用いている。彼らをそれを護符に投射したり、魔術作業に用いる。

メスメルらの研究から、また別の重要な性質が見いだされた。つまり、生命エネルギー場を相対的に移動させることによって、生命エネルギーが発生するということだ。

以上のような様々な生命エネルギーの特徴や他の魔術的な理論をベースにして、EPGを発明したのだ。

ともあれ、基本法則をまとめると、次のようになる。

1. 距離は、構造的差異の結果である。
2. 類似構造と同一構造は識別できる。
3. 生命エネルギーは、ネガティブ・エントロピーにしたがう。
4. 生命エネルギーは、磁気力と相互作用する。
5. 生命エネルギー場を互いに相対的にシフトさせると、生命エネルギーが発生する。

MAGIC OF THE FUTURE

AN INTRODUCTION TO THIRD
MILLENNIUM SCIENCE OF MAGIC
IN SIX LESSONS

BY

KARL HANS WELZ

Lesson III

Copyright 1995 by Karl Hans Welz
This course may not be reproduced in whole
or in part by any means without prior
permission in writing from
the author. Address queries to: HSCTI,
Box 666 033, Marietta, GA 30066

第3課

構造的リンク

あるラジオニクスの専門家は、かつて、ラジオニクスは、儀式魔術の一部であると述べたことがある。彼は、チューナーを固定された思考形態（思念霊）、そして、レートは、精妙な自然霊との同意をあらわしていると考えたのだ。

私は、このアニミズム的なアプローチに同意できる。古い時代においては、人々は、稲妻を「神」と考えていた。事実、彼らは、実際的に、あらゆる自然現象、惑星のエネルギーでさえも、人格神であると考えていた。まだ、現代においても、「その御手によってすべてをなしたもうた男性の人格神」を考える人も多い。

人間の歴史のある時点においては、自然科学者たちは、一方で、より擬人化しない方向でモデルを考え、他方ではさらにそれを利用した。このような科学的概念の拡大から、新たなテクノロジーを発達させていったのだ。

ある人が、自動車は、神である。それに、ガソリンを供え、適切に触れたならば、私達を運んでくれる神であるといったならば、それは、正しいといってもよい。

アニミズム的なアプローチに満足できるならば、それは、OKである。このアプローチによって、（通常は宗教的な）「伝統」が、教えてくれる「方法」に従うならば、魔術とラジオニクスのいくつかの技法を用いることができるだろう。

別の、より有益な方法もある。それは、魔術的な、あるいは、ラジオニクスの手順を科学的な用語で分析することからはじめる方法だ。もし、それを行ったならば、構造的なアプローチは、古きアニミズム的なアプローチよりも、はるかに大きなポテンシャルをもっていることに気づくだろう。このようなアプローチが、多くの点で優れていることが証明されるはずだ。さらに、それは、魔術とラジオニクスを理解し、伝統という拘束着を脱ぎ捨てることができるのだ。同時に、創造性を鼓舞し、伝統主義者が認識することができない領域にまでそれを拡大せしめることができるのである。

キャトル・プロッター（家畜を追い立てる電気突き棒）

まず、最初にニューギニアの奥地の未開の部落に旅をしたと考えて欲しい。あなたの装備のなかには、電氣的なショックを与えるキャトル・プロッターがある。あなたは、その社会の宗教的な信仰についての知識をもっているので、一年のなかの神聖なる時期に、伝統的な装いで、プロッターをもってあらわれる。その電気ショックを彼らは、天空の神の力と感じ、あなたを神と考えるのも無理はない。

これには、複数の理由がある。ひとつは、彼らが、電気を知らず、しかも、その力を感じることができるという点である。もうひとつの重要な点は、あなたが彼らの信仰体系にあわせたということである。もし、あなたがそれを行うことをしなければ、結果は、かなり危険なものとなったかもしれない。なぜなら、電気ショックは、苦痛を伴うもので、容易に悪魔的イメージと同一視されるかもしれないからだ。

生命エネルギーに関する限り、ほとんどのアメリカ人は、ニューギニアの奥地の人々とかわりない。生命エネルギーが存在することを知っている人は、ほんのわずかである。生命エネルギーを感じることができるということを知っている人は、さらに少ない。人々の大半は、

生命エネルギーの存在を否定する立場にある。EPGを販売するとき、私は、人々にそのエネルギーを感じてもらうことがあるが、その結果、信じているか否かに関わらず、90%程度の人々が生命エネルギーを感じていることを確かめた。必要なことは、存在する主流となっている宗教にいくらかあわせるということである。

私は、次のようにやり方で、実験をした。まず、キリスト教専門の書店に行き、15センチほどの大きさの十字架を購入した（もちろん、中国製である）。そして、直径1センチほどの穴をひとつあけた。それから、小さな水晶をふたつに割り、ひとつを十字架のなかに埋め込み、出てこないように、紙をつめてふたをした。そして、もう一方の水晶をEPGのなかに入れた。これが、キャトル・プロッターだ。次に私がしたことは、知りあいのキリスト教徒に、その力を感じてもらっただけだ。私は、その十字架から、神の力がきていることについていくらかコメントをのべた。手のひらを十字架の上にかざすと、ほとんどの人が、その生命エネルギーを感じていた。適切な状況下で、その力を感じたならば、十字架から放射されているのは真に神の力であると論理的に結論するのも、当然だ。彼らが、暖かさよりも、むしろ、風を感じるといったときには、私は、おもしろがって、旧約聖書で、ダビデ王が、いかに、神を穏やかな風と感じたかというくだりを厳かに述べて聞かせた。このような「キャトル・プロッター」の用法は、おもしろいもので、あなたは、新興宗教でもつくろうかとの気にさえなるかもしれない。

なぜ、このように「キャトル・プロッター」は、作用するのか？答えは、水晶にある。水晶のふたつの部分は、素晴らしい構造的リンクとして機能する。割った表面の類似が、明らかなリンケージであり、第二のリンケージは、水晶の組成自体が同じであることだ。ふたつの部分には、同一性があるのだ。いままでの本書の内容から、十字架の

上に手をかざしている人は、構造的リンクとして機能しているEPGにおかれた水晶を通じて、EPGからのエネルギーを受けていることが理解されるだろう。水晶の近似した構造が、EPGから、十字架へのエネルギー伝達を可能にしているのだ。水晶のかわりに、何か図案を描き、それを2部コピーし、一部を、十字架のなかに、もう一部をEPGに入れても同様の成果が得られる。近隣や知人のキリスト教徒で楽しんでみよう。このようなことは、楽しくないと考えるならば、この実験をわざわざ行う必要はない。

同一、もしくは、近似構造

いままでに構造的リンクについての概念には、慣れ親しんできていることと思う。構造的リンクは、ターゲットと結びついたものと、魔術的活動をあらわすものがある。私達は、生命エネルギーが、等価、もしくは、同一構造を経由して結びつくこと、同種の構造を経由して伝達することを学んできた。

次に同一構造、等価構造についてのふたつの概念を扱い、ちょっとした実験を行うことにしたい。私達が話していることを実際に「感じる」ことは、百万言を費やすよりも価値のあることだ。

同一構造の概念を理解するのは簡単である。事例1の同一構造体は、髪の毛であった。髪の毛の細胞の遺伝子コードは、その髪の毛のものの持ち主である人の他の部位の遺伝子コードとほとんど同一である。それ故、生命エネルギーは、髪の毛から、有機体の他の細胞へと伝達されるのである。この構造的リンクといった概念は、狭いものとしてとらえてはならない。例えば、ある人を視覚化したとき、それが、実際のその人と同一構造となることはまずない。それは、私達の脳の記憶にある外見であるからだ。しかし、私達の記憶は、時間次元を含む

構造的リンクを可能にできるのだ。同様のことは、名前などの場合にも言える。

第二課では、生命エネルギーの作用と魔術師がいかに関与するかを説明するために、実験を行った。ここでは、その実験を理解することで新たな魔術的テクノロジーを考えていこう。

プラクティス#1と#2では、構造的リンクは、無視されているかもしれない。生命エネルギーは、しばらくの間、結合したままなので。

プラクティス#3では、心の命令にしたがって、生命エネルギーが流れている。後に、生命エネルギーは、あなたが「命じた」形をとるということを学ぶかもしれない。生命エネルギーに、まっすぐではなくて、アーチ型のエネルギー・ブリッジを描くように命じたりすることで、この練習を拡大することができる。

あなたが、心で、生命エネルギーを導くことができることは明らかだ。この能力は、生命エネルギーが等価構造結合体を通じて、伝達されることによって可能となるのである。近似同一構造の典型的なものは、同じ材質であることがあげられる。例えば、いくつかの魔術儀式では、同じ材質のもの、儀式衣装などを身につけるが、これは、エネルギーの伝達を促進するものである。一方、写真は、等価構造である。ラジオニクスや、特定のシジルなども、それである。

プラクティス#5から、#14は、すべて等価構造による伝達である。

魔術師は、等価構造体について語る時、時々、「象徴的表示体」

という言葉を使う。これによって意味するところは、人や集団、事象、特定の魔術的エネルギー、魔術的（霊的）実体などをあらわすものということである。

魔法の世界で古くから言われていることに次のようなことがある。「もし、あなたが、あるもの（例えば、霊や人など）の真の名前を知ったならば、そのものを支配することができる」というものだ。この仮定の下、多くの魔術師たちが、「力の言葉」、呪文を発達させていった。このような「真の名前」や「力の言葉」は、もちろん、等価構造体である。

等価構造は、かなり、環境、文化背景、魔術体系、特定の象徴体系や用いられるデザイン体系によるところが大きい。等価構造の最も頻繁に基礎として用いられるものは、ジジル、サウンド、舞踏、お香の調合、人形、占星学チャートの表示体、ラジオニクス装置、タロットの象徴などである。ここまでのところから、等価構造のマトリックスが、また、重要性をもつものであることが理解できると思う。このマトリックスとは、魔術師が、構造的リンクを確立するために、アレンジした構造のことである。これらのマトリックスの多くは、「人工的な」ものである。つまり、人間が、その信念体系にしたがって、確立したものであるということだ。このようなマトリックスは、素晴らしいものであるけれども、多くの魔術において絶対的に必要なものではない。

獣帯は、自然のマトリックスの好例である。そのセッティング（惑星位置）によって、そのセッティングのもとで生まれた人の特性が決定される。より一般的な影響力としては、占星学的な位置によって、高次の諸力との結合の場が確立されるのである。このエネルギー場は、その領域にあるすべてのものに影響を及ぼす傾向性を確立する。後に、この点に戻って、いかにして比較的容易に自分自身の占星学的な傾向

性を確立することができるかを示すことにしよう。

等価構造とターゲットや、高次エネルギーとの結びつきは、部分的には、私達の脳の機能からきていることもある。これは、特に、等価構造の要素として、文字や数字を用いる時にはそうである。私達のマインドが、あるものを等価構造の一般的なマトリックスであると認識し、ターゲットとの接触を確かなものとするマトリックスの特定のセッティングを確立するのである。

技術的な視点からすれば、私達は、広範な等価構造を用いることができる。純粹な視覚化やイメージングから、シジルの製作、お香やオイル、ハーブなどの自然の構造的リンクの使用まで、すべて活用することができる。

ラジオニクス装置は、等価構造のシステムの素晴らしい例である。

もし、私達が、心のなかで、世界をあらわすもの、あるいは、世界を象徴するとしてあるものを宣言、あるいは、決意したならば、そのシステムの一部を世界の要素をあらわすものとして工夫することができるということである。

例えば、もし、ラジオニクス装置が人間の肉体をあらわすと考えたならば、そのセッティング（レート）は、肉体の各部位をあらわすと言うことができる。

等価構造は、約束事の結果として生まれるものだ。霊的なリンクージュをつくりだす我々の能力は、等価構造の機能の根本であるとしてよいかもわからない。他方で、（髪の毛のような）近似同一構造のよいリンクを得て、それから、（髪の毛をとった肉体のために）等価構造のシステムを発達させていく。もし、髪の毛というリンクージュがなけれ

ば、肝臓のためのセッティングは、肝臓に照応した獣帯的なエネルギー（この場合は、木星）になってしまうかもしれない。

距離は、構造的差異の結果である

私達が距離は、構造的差異の結果であると言うときには、近似構造と等価構造の両方を含める必要がある。構造の類似性、近似性が高まる程、生命エネルギー伝達に関する限り、「距離」は近くなる。

生命体は、そのシフトする構造的リンケージによって距離を確立する。それ故、生命体は、いつでも魔術を実践していると言えるのである。

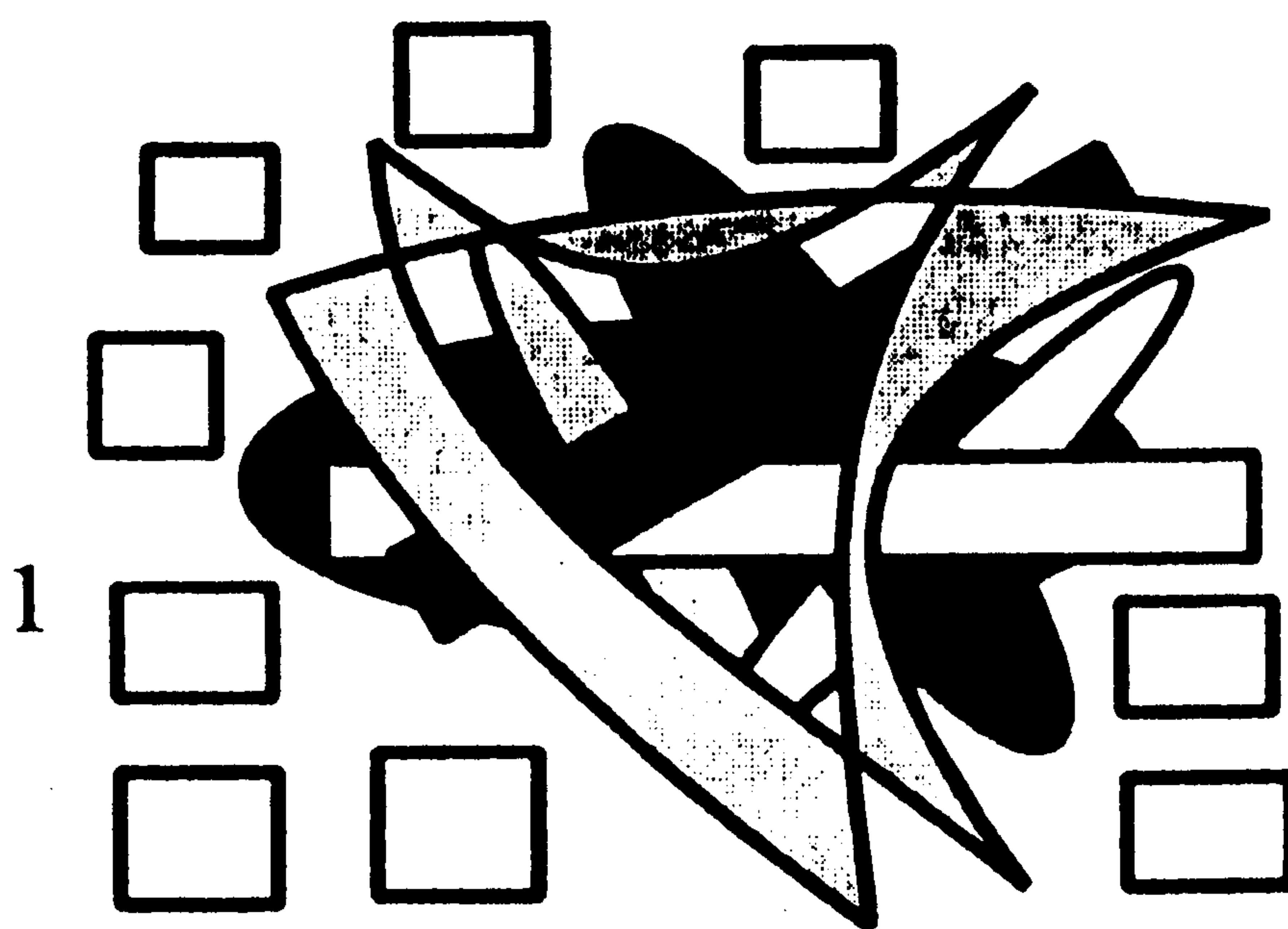
この上述の構造的な概念から、「距離の近さ」ということは、私達が移動したりしているこの三次元空間のことだけではないということがわかるはずだ。私達は、空間について、非常に習慣的な概念にとらわれてしまうことが多く、「魔術的な距離の近さ」ということは、完全に無視している。そして、何千キロも離れたところからの呪術をかけ、三次元空間を越えた「距離の近さ」の結果としての犠牲になったとき、はじめて気づくのかもしれない。しかし、そのような時でさえも、多くの人は、明白なことを受け入れるよりも、「奇跡」として片づけてしまうことを好むものだ。構造的リンケージは、視覚的な空間を橋渡しするもので、多くの物事を容易に説明することができる非常に価値ある概念である。

構造的リンクによる実験

構造的リンクを理解するための最善の方法は、実験により、実際的な体験をすることである。この実験は、また、私達の構造的リンクに

ついでに概念を拡大するのにも役立つものだ。魔術の古代原理を徹底検証することは、空間概念の拡大に役立つものである。それでは、構造的リンクについての実験にうつろう。

1. ふたつの同一構造体：適当な図案を描き、そのコピーを2部とり、原本は、廃棄する。
2. それによく似た図案を描き、また、そのコピーを2部とる。
3. ラジオニクス装置（絶対必要というわけではない）
4. E P G
5. 実験をする部屋の床の写真
6. 実験する部屋の見取り図
7. 下記のシンボル



プラクティス#20：魔法のワンドでの伝送

前ページのシンボルのコピーを2部とり、図形のなかの小さな四角のうちの3つから5つのなかに、×印を記入する。その同じ位置に、もう一枚にも、×印を記入する。これによって、個別化するわけである。その内の一枚を手にとり、最初は、手で、次に魔法のワンドでエネルギーを放射し、もう一枚のシンボルの上に手をかざし、その力の放射を感じる。

プラクティス#21：EPGでの伝送

EPGを用いて同様のことを行う。EPGの前に、2枚のうちの1枚をおき、もう一枚の上で、エネルギーの放射を感じる。

プラクティス#22：

同様の作業を「間違った」シンボルを用いて、実践し、そのシンボルが「正しい」ことを視覚化する。これは、マインドの柔軟性を示す実験である。これは、「バイパス」によって実現されるのだ。

プラクティス#23：

あまり同一ではないシンボルを用いて、同一のものの場合と比較する。両方の受け手側のシンボルのエネルギー出力を同時に感じる。

ラジオニクス実験

次の実験は、ラジオニクス装置を使用するものだ。ラジオニクス装置により、構造的リンクが確立される。

プラクティス#24 :

部屋の写真をとり、その写真の上のターゲットとなる部分に+を描き、そのレートを求めるため、ラジオニクス装置のダイヤルをセットする。そして、ラジオニクス装置をEPGに接続する。実際の床の上のターゲット・エリアのエネルギーを感じる。

プラクティス#25 :

上記と同じ実験を行う。しかし、ここでは、床の上のエリアの照応する音を確立するために、スティック・パッドを用いる。

プラクティス#26 :

スティック・パッドを用いて、マントラを発達させる。

プラクティス#27 :

構造的リンクのひとつをEPGの前に置き、ラジオニクス装置でそのデザインをあらわすレートを設定する。次に、ラジオニクス装置の回路図にダイヤルのセッティングを記入する。これは、等価構造の法則をさらにすすめたものだ。この法則は、なぜラジオニクス装置の回路図が、装置自体と同様に機能するのかを説明するものだ。

プラクティス#28 :

#27のラジオニクス装置の出力部に第二の構造的リンクを置き、同一デザインを持ち運ぶ。

構造的リンクの法則

1. 魔術的伝送とその技術的用法の基本原則：距離は、構造的差異の結果である。これは、換言すれば、生命エネルギーの流れは、類似構造にしたがうということだ。実際的な応用として、ふたつの同一デザインがあれば、その間を生命エネルギーが流れるということである。

2. もし、髪の毛のような人物の一部である物があれば、その人物の間にエネルギーの橋をかけることができる。これは、髪の毛の細胞のなかにある遺伝情報が、その人物のためすべての遺伝情報と同一であるからだ。髪の毛、指紋、血液や類似のものを使用するのは、経験からきた結果である。

3. 私達は、マインドによって、生命エネルギーの方向をかえることができる。これは、マインドが構造を発生させることができるからだ。もし、私達が、生命エネルギーを伝達する対象の人物を視覚化すれば、マインドのなかにその人物に類似した構造を発生させることができる。この構造は、ターゲットの人物と結びついており、その人物へのエネルギーの流れが、可能となるのである。

4. 等価構造体

等価構造体は、同一構造ということではない。「世界」として、特定の影響力、エネルギー、個人を、よく特定化された照合枠を決定することから生じている。この照合枠を個々に設定することで、影響力、効力、エネルギーを決定することになる。

5. 自然のなかにある等価構造体

自然は、私達が等価構造体と呼ぶものの広範な例を与えてくれる。そのそれぞれの事例のなかで、それに対する他のものの特徴を決定す

るために、ひとつの体系を用いることができる。その特徴を決定するための方法は、等価構造体の特性に対する研究、統計的比較、翻訳を可能とするモデルの発達の結果うまれてくるものだ。例えば、虹彩学（診断のため、また、その人の性格や未来を語るため）、指圧、占星学などがあげられる。そのなかで、獣帯と天体は、ラジオニクス装置の側面をもつ。占星学的な獣帯は、自然発生的な照応枠である。それは、この惑星のすべてのことに関連している巨大なラジオニクス装置に例えることができる。私達は、この惑星系の「ダイヤル」をセットすることはできないが、宇宙的な属性をもつラジオニクス装置をもちいる別の方法がある。事前にこの惑星のラジオニクス装置の要素である惑星の位置を計算することができるので、特定の時に、特定の個人に結びついている獣帯のエネルギーの種類を決定することができる。獣帯のエネルギーの性質を決定した後、それを個人に対して意味のあるエネルギー傾向として解釈することができる。

6. 人工的等価構造体

人が、等価構造体とすべく発達させてきた、いくつかの象徴体系と装置がある。私達のマインドが、世界を反映するものを決定するときには、いつでも、それを等価構造体をあらわすために用いることができる象徴体系として用いることができる。そのような場合、地図は、それがあらわそうとするテリトリーの構造的リンクとなる。生命の木は、そのようなものである。あらゆる種類の象徴体系、著名なアルファベット、エノキアン・タブレット、神話といったものは、別の照応枠なのである。ラジオニクス装置も、より最近に発達した照応枠であり、等価構造体を確立することができる。

私達は、人工的な等価構造体を高次の特定のエネルギーと結びつくために用いることができ、それにより、特定のエネルギー傾向を発生させることができる。このようにして発生した傾向に、人の構造的リ

ンクを結びつけることで、その個人の体験に影響を及ぼすことができる。つまり、その人の「運命」を修正することができるのだ。

宇宙的な照合枠である獣帯の性質から、新たなテクノロジーが生まれた。私達は、特定のセッティングにより、宇宙的な獣帯のエネルギー体系にコネクトすることができる照合枠を発達させてきた。これにより、私達が望むいかなる傾向も発生させることが可能になったのである。

リーディングや実践魔術のために、人工的な等価構造体を使用することができる。

特定の人工的等価構造体は、非常に有効であり、普遍的に活用できるからといって、その構造がイコール世界であるということの意味するものではない。これは、地図が、イコールそれがあらかず場所であるとか、私達の言語が世界そのものであるといったようなナンセンスな意見と同じことだ。特定の魔術的な地図化が成功をおさめることで、このような考えに陥ることはよくある。人間の特定の心理的な特質にその地図化がインパクトを与えたり、社会経済の抑圧的な機構が存在し、それに適合する場合には、宗教が生まれるのである（そう、このことから、宗教というのは、原始的な人間によってあやまって解釈された魔術的テクノロジーの産物であるといえるのだ！）。

一連の要素をとりあげ、それを特定のやり方で配置し、特定の象徴的価値と意味をその構成要素と配置法に与えることで、世界のHOEを含む人工的等価構造体の体系を確立することができる。全体的な成功のために、要素を決定することは、等価構造体に関連する「世界」に対する柔軟性と象徴的な調整を行うことを意味している。私達がつくりあげる世界についてのモデルが、決定要素となる。

人工的な等価構造体のいくつかは、真の象徴体系であり、それ以外は、ただの象徴の寄せ集めである。真の象徴体系においては、その全体構造が重要になる。象徴体系のなかでの各要素の位置と、他のすべての要素との関係が、重要になるのだ。このような関係が存在しないものを単なる象徴の寄せ集めと呼ぶのだ。例えば、生命の木、タロット、神話、バードンの体系の諸実体、18神聖フウソオルク・ルーンなどが、真の象徴体系に属する。エノキアン・システム、レメゲトンの実体、他のほとんどのグリモワールやルーン、「芸術的」なタロットの多くは、「寄せ集め」の例である。

あなたが、人工的等価構造体のシステム（例えば、エノキアンのような）をチャネリングするか、神話としてそれを感じるか、論理的に発達させるかといったことは、関係ない。チャネリングされる等価構造体のほとんどは、真の象徴体系というよりは、「寄せ集め」である。象徴体系の技術的進化のプロセスは、どの場合も同じであり、チャネリングされるか、論理的に発達するか、神話的なものである。さらに次のことを理解しておくことは重要である。それは、人工的等価構造体は、包括的なものであるということだ（つまり、適用させることができないものは何もないということ）。これは、このような他の多くの体系を無限に構築することができないということを意味しているわけではない。

あまりに多くの優れたオカルティストが、ある特定のシステムを、ただそれが包括的であるというだけで、「唯一の真理」として受け入れるというわなにはまりこんでいる。役に立つ地図は、神ではないのだ！生命の木は、世界そのものではないのである。マンダラは、「そこにあることが知るべきすべてのこと」というものではないのだ。

ここで、情熱あふれる伝統的な魔術師に何が重要であるのかを思い

出させてやりたい。いま私が述べたことは、「神秘学校のアプローチ」は、あざけりの対象でないにせよ、既に過去のものであるということだ。ラジオニクス装置の発明と自分独自のシジルと等価構造体の体系を創造する個人的なアプローチは、組織化された宗教の一面を担ってきた厄介な伝統から自らを解放する助けとなるものだ。

人工と自然の等価構造体を含むスペクトラムには、ふたつの極がある。一方の極にあるラジオニクス装置は、「オフ」にしたときには、何も「内容」、つまり、構造的リンケージをもたない全面的な柔軟性をもっている。スペクトラムのもう一方の極が、遺伝情報である。それは、柔軟性をもたない、全面的な構造的リンケージである。ラジオニクス装置は、何に対しても伝送することはできるが、それには調整を必要とする。遺伝情報を用いることで、等しい遺伝情報に真っ先に伝達されることになる。もし、このようなやり方でターゲットとなる人物が、「障壁」をもっていなければ、伝送は、スムーズに遺伝情報に対し、行われることになる。この特徴のため、障壁をはることに関するかぎり、魔術師にいくらかの負担がかされることになる。

MAGIC OF THE FUTURE

AN INTRODUCTION TO THIRD
MILLENNIUM SCIENCE OF MAGIC
IN SIX LESSONS

BY

KARL HANS WELZ

Lesson IV

Copyright 1995 by Karl Hans Welz
This course may not be reproduced in whole
or in part by any means without prior
permission in writing from
the author. Address queries to: HSCTI,
Box 666 033, Marietta, GA 30066

第4課

等価構造体と高次エネルギー

この課と次の課では、世界の地図化についてお話していきたい。これは、あなたがいかなる魔術作業を実践する際にも、有益な等価構造体を確立するのに役立つはずだ。これらの地図化は、私達の世界の「現実」の構造と関連している。私達が、世界という言葉を用いるときには、アカデミックな物理学者が世界について考える以上のことを意味している。時空の世界を超越したものを意味しているのだ。私達が語る世界は、生命エネルギーの作用領域、特定の作用、傾向性をあらわす領域、創造エネルギーの領域を含んでいる。簡潔に言えば、この世界は、古典的な物理学で言うところの「物質的な」ものと、「魔術的な」ものに結びついているということだ。これらの領域について私達が確立しているモデルは、非常に柔軟性に富んだものだ。しかし、私達が自分たちの目的のために、これらの領域についてかなり包括的なモデルをうまく確立することができるということは、その同じリアリティ、同じ世界のモデルをつくるために他に無限の方法があるということをお否定するものではない。

さきの課で、私は、高次エネルギー（HOE）について何回か言及した。私が、HOEという場合には、電磁気的なエネルギーの世界を超越して作用する活動や傾向性のことをさしている。実践的な作業で、これらの諸力を叙述する多くのモデルを用いてみると、占星学的なモデルが、最も有益な地図化の技法のひとつであることがわかる。これは、占星学的なモデルは、宇宙的な構造を反映したものであるからだ。この惑星上での生は、この宇宙的な構造にしたがったものであるからだ。

HOEについての作業をする場合、「ゼロ点エネルギー」について
いづらか理解しておいた方がよいだろう。これは、形而上学者が、「混
沌」と呼んでいる領域である。ゼロは、何もないということではなく、
均衡のポイントであり、そのため、結果的にゼロになるのだ。もし、
均衡を「乱す」ならば、何かを「創造」することになる。いくつかの
現象については、確かにこの「混沌」の地図化が有効である。

高次エネルギーは、特別の性質をもっている。それは、形而上学者
が、言うところの「高次諸界」と関連している。その力の多くは、「人
格化」する特徴をもっている。つまり、これらの力は、「人物」とし
てあらわれることができるということである。そのため、HOEの人
格化は、全人類を包含する主観的な価値をもっている。この人格化の
特質のため、古き時代の魔術師たちは、HOEについて語るとき、精
霊や神々としてそれを語ったのである。このアニミズム的なアプロー
チは、多くの利点をもつ。さらに、心理的なプロセスと他の抽象的な
ことについて語るために、神話的な体系を創造することができる。高
次諸界の描写、地図化は、非常に有益であり、とりあえずは、私が、
述べる領域を探求し、その後、そのエネルギーを用いて、各自で実践
していくことを希望する。

四大エレメントと四界

四界とともに、四大エレメントは、広範な魔術世界を扱う上で、素
晴らしい枠組みである。この枠組みによって、私達は、アクセスした
いと願う、いかなるHOEにも、アクセスすることが可能なのである。
このモデルは、有益で、包括的なものである。しかし、私達は、等し
く高い価値をもつ他の無限のモデルをつくることができるということ
も、また、指摘しておく必要があるだろう。

四界について述べる前に、四大エレメントについて簡単に述べておこう。周知のとおり、形而上学的なエレメントは、化学的なエレメントとは、ほとんど関係がない。これらのエレメントは、化学的な元素のような基本的な物質よりも、基本的な性質を有するものであるといえる。形而上学的エレメントの基本性質は、私達の感覚体験と関連している。それは、私達の感覚的知覚をより精妙な世界に投射したものである。

四大エレメントの概念の基礎にある四つの感覚体験は、熱、冷、乾、湿である。熱と冷のペアをポジティブ、ネガティブとしている。乾、湿は、電氣的なもの、磁氣的なものとして考えている。

火と水は、基本的なエレメントで、対極をなしている。風と地は、二次的なもの、もしくは、最初のふたつの混合体と考えられる。これは、大切な視点である。

何人かの研究者は、風を火と水のふたつの原理の相互作用として考えている。そして、地は、その三元素の統合体としている。顕現の世界の「上に」ある神の三位一体は、この観点をいくらか反映している。この象徴体系は、多くの「異教」的な宗教や、異教化したユダヤ教であるキリスト教に見いだすことができる。

電氣的、磁氣的ということは、電磁氣的エネルギーと生命エネルギーの現象に関連している。火のエレメントは、電氣的—ポジティブであり、物質次元において、慣習的な意味においては、それは、エネルギーであり、光である。地のエレメントは、電氣的—ネガティブであり、それは、構造化された光、「凍結した光」である。現代物理学から、この理論はいくらか支持が得られるかもしれない。

風のエレメントは、磁氣的—ポジティブである。物質次元において

は、それは、アクティブなライフ・フォース、もしくは、フリー・ライフ・エネルギーである。水のエレメントは、磁氣的-ネガティブ、もしくは、構造化されたライフ・フォースである。

四大エレメントを物質次元に関連させ、四大エレメントを秩序化することは容易である。地と水は、濃密物質次元に属しており、一方、風と火は、エーテル的な部分を占めている。「ポジティブ」、「ネガティブ」といったラベルは、濃密さのことをさしているわけだ。火や風といったエレメント的な照応は、基本的性質の理解をより容易にするための図式である。電氣的-磁氣的とライフ・エネルギー、濃密（構造的）と精妙（エーテル的、非構造的）といった視点は、ヒンドゥー哲学への傾倒から生まれた「アカーシャ」の元素を含む五元素を採用するよりも、現代物理学と未来魔術のリアリティに調和するものである。四大エレメントは、光のエネルギー（電磁氣的エネルギー）の物理学的なリアリティとライフ・エネルギーをよくあらわしている。

ここで復習しておこう。

火-発散光-エーテル的電磁氣-熱・乾-ポジティブ・電氣的

水-凝縮ライフ・エネルギー-構造的オルゴン-冷・湿-ネガティブ・磁氣的

風-発散ライフ・エネルギー-エーテル的オルゴン-熱・湿-ポジティブ・磁氣的

地-濃密（凍結した）光-構造的電磁氣-冷・乾-ネガティブ・電氣的

四大エレメントにより、私達は、内なる体験の諸界と照応した存在諸界の素晴らしいモデルを手にすることができる。地のエレメントは、意識的であること、あるいは、物質界に照応し、水のエレメントは、人の情動、アストラル界に照応、風のエレメントは、マインドとメンタル界に、火のエレメントは、意志とコーザル界に照応している。

魔術師は、ある「実体」、つまり、四大エレメントと照応した高次エネルギーを「見る」ことができる。これらの伝統的なエレメンタルは、火のエレメントのサラマンダー、風のエレメントのシルフ、水のエレメントのウンディーン、地のエレメントのノームがある。

技術的な意味において、エーテル界に顕現（人格化）する高次エネルギーを精霊とみなしてもよい。

諸界

存在界も、エレメントと照応している。宇宙意識の講座のなかで示されている技術で「一なる」意識へと向かうためには、このモデルに慣れておかなければならない。これらの諸界を「高次の」世界、あるいは、「内的」世界として知覚することができる。この作業で進歩していくにつれ、「高次の」ものと、「内的な」ものの間の区別は、極めて限定的なものであることが理解できるだろう。神とひとつになることで、最終的には、「内的」なものと「高次の」ものの区別が、意味のないものとなる領域へと自己を高めることになる。

物質界

物質界、そこで見いだされるすべてのものが、「触知可能」であり、自分が意識できるものを見いだす世界である。高次諸界のそれぞれが、

物質的な対応要素をもっている。それは、自分で意識できるようにすることができるものである。

便宜的に、物質界をふたつのレベルに分割している。すなわち、エーテル界と濃密物質界である。エーテル界は、フリー・オルゴンと、フリーな光のエネルギーを含んだ界であり、濃密物質界は、構造化された領域である。

私達は、このような区別をするけれども、ふたつの界の間に明確な境界があるわけではなく、連続的に移行している。フリー・オルゴンとフリー・ライトは、まさに混沌との境界にある。これらのエネルギーが顕現すればするほど、その「外見」は、濃密になる。純粋なオルゴンは、存在しないし、純粋な光も存在しない、全面的に濃密なもの、全面的に非構造的なものもない。私達が用いている「ラベル」は、私達の存在を越えた極端なものをさしているのだ。エレメントの混合により、ものが存在するようになるのであり、純粋元素自体では存在することはできないのだ。物質界は、現代物理学が述べようとしている時空連続体よりもはるかに複雑なものである。ライフ・エネルギーは、三次元世界の法則には従わない。それは、それ独自の「空間」をもっているのだ。その空間の主要な特徴は、構造的結合にある。

アストラル界

アストラル界は、有形、触知可能なもののマトリックス（基盤）を含んでいる。それは、形成の世界である。アストラル界のエネルギーは、エーテル・物質界のそれよりも、より精妙なものである。それは、情熱、情動の世界である。顕現を欲する霊は、アストラル界に存在している。その顕現のためには、物質的な焦点が必要である。人間は、霊がエーテル形態をとるように導くことができる。魔術師が、それを意識的に行うことを、「霊の喚起」と呼んでいるわけだ。私は、霊を

喚起し、EPGを用いて十分なエネルギーを供給することで、その姿をポラロイド写真におさめることもできた。

また、私達は、自分たちのエネルギー場をアストラル世界にまで拡大し、そこを旅することもできる。この方法によれば、「実体」を喚起的プロセスによって、物質化させることをしなくとも、彼らと接触することができる。

メンタル界

メンタル界は、思考とメンタル・マトリックスが存在している世界である。アストラル・エネルギーよりも、さらにエネルギーは、精妙になっている。それは、人間のマインドと関連している。メンタル界の別名は、創造界である。メンタル界を思考の世界とみなして構わない。私達の脳は、思 に対する知覚感覚器である。

コーザル界

この世界は、意志の世界、流出の世界である。それは、スパークが存在している世界である。そのスパークが、通過する各界の特徴を帯び、事物を顕現させるのだ。最初に、メンタルなパターンが付加され、次に、情動のアストラル体、最後に、エーテル、もしくは、濃密物質形態を帯びるわけだ。

合一意識に到達するためには、意識的に四大エレメントをそろえ、すべての界を意識する必要がある。それにより、他のアイデアが最終的に顕現するように、宇宙意識を顕現させることになる。

諸界を自己に関連させる方法

諸界というのは、私達が知覚し、それと相互作用を行う世界のエネルギーを描述するために確立されてきたモデルである。物質界で見いだされるのは、顕現体そのものであり、一方、「傾向」（エネルギー傾向）は、物質的なものを越えた界の一部である。コーザル界は、イデアを活動させ、メンタル界が、形を与え、アストラル界が、情動を、そして、物質界に、顕現するのだ。魔術作用、あるいは、エネルギー傾向をターゲットに伝達するとき、高次のエネルギーを用いて、それをターゲットに顕現させることになるわけだ。

世界の占星学的な地図

占星学的な位置と私達の惑星に対するエネルギー傾向との間に照応があることは、はるか以前に確立されたものだ。古代の魔術師たちの経験的な観察から、この惑星上の各個人の運命や一般的なエネルギー傾向と、個人の出生時の惑星位置との間の関係に関する科学が、発達してきた。個人にとって価値ある、より特定のエネルギー傾向は、誕生後の惑星や星々の動きの分析によって見いだされた。ある位置との関連における天体の位置は、ラジオニクス装置の設定によく似ている。

惑星や恒星などとその動きを緻密に分析すると、ある興味深い結果がもたらされていることがわかる。それらは、数霊的に興味深い関係をもっているのだ。ボーデの法則は、その関係をあらわしている。

占星学は、人類のためになってきたが、ほとんどの占星家は、なぜそれが機能するのかを説明することに失敗している。天体は、神であるという古き仮定は、いくらかの価値はあるものだ。それは、これらの神々を懐柔することで、星々が約束する以外のエネルギー傾向を確

立する目的をもつ魔術体系を発達させる役に立ったのだ。このアニミズム的なアプローチは、HOEである占星学的なエネルギーのリアリティにかなり近いものである。現代のほとんどの占星家に、真に科学的な訓練が欠落していることは、彼らの公式化した理論のなかに見いだせる。古代の占星家のアニミズム的なアプローチが、少なくとも、エネルギー傾向発生のためのテクノロジーに寄与したのに対し、現代のポップ・サイエンス的なアプローチは、それに対応するようなものは、何ももたらさずはしない。占星学は、総じて、ただ「傾向」を解釈するだけの科学へと墮してしまっているのだ。現代の占星家は、未来を予測できるという利点をもつカウンセラー以外の何ものでもなくなってしまっている。

おそらく、なぜ占星学が機能するかということに対する最も適切な説明は、構造的なアプローチにあるだろう。このことで、私達が意味するのは、惑星系が、巨大なラジオニクス装置として機能しているということだ。この宇宙的ラジオニクス装置の素晴らしいところは、その「ダイヤル」の位置を事前に計算することができるということだ。これにより、私達は、前もって、占星学的なエネルギー傾向を決定することができるのだ。

私達は、各惑星との関連において、生理学的、物理学的、心理学的な性質の特定の機能を観察することができる。さらに、獣帯内のある惑星の位置が、その機能を修正し、惑星相互間の位置（アスペクト）が、その特定の相互作用を増大、あるいは、減少させることになる。

惑星や獣帯の機能について、初歩的なことをよく理解することが、勧められる。次に、太陽系とカバラの体系との関係を述べていくことにしよう。ここから、広範な特定の实体（HOE）を描き出すためのアプローチへと向かうわけだ。このようなアプローチは、例えば、フ

ランツ・バードンの「喚起魔術の実践」といった書のなかにも見いだせる。彼が、その書のなかで述べた各実体は、特定の影響範囲をもつ。これらの実体を使うためには、ジジルによって、それとのリンクをつくりあげる必要がある。それから、ターゲットとの霊的なリンクをそれと結合させるのだ。

惑星系が、広範なラジオニクス装置のように、私達に作用するということを知っておくことは、非常に大きな利点がある。獣帯的要素をHOEのための等価構造体として発達させることができるからだ。これらのHOEにライフ・エネルギーで力を与えることで、自分独自の傾向を創造することができる。これにより、星々を支配した古代の叡智を取り戻すことができるのだ。私達のアプローチは、アニミズム的なものではないので、さらに優れた柔軟性をもつという利点加わることになる。

惑星の魔法陣

惑星のエネルギーは、「傾向」を確立するために用いることができる素晴らしいものである。もし、占星学的な体系が、個人、集団、出来事に対して効力ある傾向性を決定するならば、私達は、占星学的な傾向を決定する要素と構造的に結合することで、自分自身の傾向を発生させることが可能であるということになる。これは、占星学的なエネルギーを好きに使うことができる占星学的なエネルギーのグリーンハウスにたとえることができる。

惑星のエネルギーと構造的に結合することは、古代の知識である。惑星のエネルギーを引き寄せ最もよい方法のひとつが、惑星の魔法陣を使うことだ。これらの魔法陣には、このようなつながりを確立する特定の数字が配されている。「古典的な」惑星に意味する七つの魔

法陣がよく知られている。

プラクティス#30：七惑星の魔法陣を用意し、それを一枚一枚、チャージする。そして、そのエネルギーを観察し、感じ、瞑想状態のなかで、同調する。EPGの出力パイプと構造的リンクの間に、受ける感覚の違いを感じ取り、それを記録する。

プラクティス#31：惑星の魔法陣と星座のシンボルを用いて、それをEPGのフィルターとして用いる。あるいは、三角形のなかに置き、生命エネルギーを放射することで、惑星のエネルギーを引き寄せる。

タロット

タロットは、生命体験の場の元型的表示体群である。それは、獣帯とそのエネルギーにリンクをもっている。各カードは、特定の高次エネルギーをあらわしている。占星学やタロットの内容は、あまりに深遠であるので、ここで解説することはできない。良書の学習をすすめるのみである。

プラクティス#32：EPGを用いて、カードにエネルギーを放射し、そのカードのエネルギーを感じる。

プラクティス#33：惑星の魔法陣をラジオニクス装置にいれ、生命エネルギーでその装置に力を与える。そして、伝送図形をスティック・パッドの上のせ、第二の伝送図形にその惑星のエネルギーを感じる。

プラクティス#34：タロット・カードについても同様のことを行う。各カードのレートを求め、それを記録しておくことは後々役に立つことになるだろう。

等価構造体リスト

「実体」と構造的なリンクをもつ体系を次にいくつかあげておく。「自然のもの」と「人工のもの」という分類は、いささか専横にすぎるかもしれない。等価構造体からなるほとんどの人工的な体系は、自然の基礎をもつものであるからだ。

等価構造体が機能するという事実から、多くの魔術技法がうまれた。私達が、構造について考えるとき、普通は、図形的な輪郭を思い浮かべる。構造的なリンクには、アルファベットと図形的なシジル以外に、より多くの可能性があるということを見過ごしてしまう。私達は、多くの感覚的体験における「形」を等価構造体として用いることができる。次にあげる等価構造体のリストは、自然のものも、人工のものも、人（ターゲット）や特定のエネルギー（傾向）に対して、構造的なリンクを確立するのに役立つことが証明されているものである。その内のいくつかに慣れ親しむことは、望ましいことだろう。

等価構造体の表現、及び、確立の技法

1. 言葉（祈祷文、聖歌、マントラなど）

力の言葉、神聖マントラ、ラジオニクス装置で確立するマントラ、実体を呼ぶために用いることができるいわゆる「野蛮な言葉」や術式、実体の名前、祈祷文、聖歌、チャント、秘密の「言語」などが、ここに属している。これらの方法の多くは、「チャネリング」によって、あるいは、喚起的な技法のなかで受け取られたものであるため、結果的に、その言語が発生したもととなった言語の痕跡をのこしている。例えば、フランツ・バードンの体系のなかにある実体は、ドイツ語で発音されており、また、エノク語は、完全に英語の音の構造と文法をもっている。言語のスピード、音の発音、文法構造が年月をかけて変

化してきたことを考えると、エノク語は、非常に古代の言語であるというばかりではなくも滑稽な主張を耳にして、ただ驚きあきれるばかりである。しかし、このことは、その体系の効果をそこなうものではないのである。

2. デザイン

このカテゴリーには、実体とのつながりを確立するすべてのシンボルが属する。これらの図案的なシンボルのいくつかは、他のシンボルが、特定の原理に基づいてデザインされているのに対し、自由に創案されたように思われる。ほとんどの場合、実体は、名前とシジルをもっている。シジルの文字は、その実体の名前をあらわす文字をある種の原理に基づいてデザインしたものであることがよくある。

3. 身の回りにあるもの

身の回りの環境のなかで見いだされるものがこのカテゴリーに属している。「スピリット」は、古代の魔術師やシャーマンに、どのハーブが、何に役立つかを話してきた。宝石、動物、樹木、場所などには、力が配されている。それは、獣帯や惑星、特定の神々などに関連している。民間伝承や薬草学、古き占星学、魔術書は、これらの照応についての豊かな源泉である。

4. 舞踏、アーサナ、ムドラー

以上のことは、特定のエネルギーへの構造的リンクとして働く素晴らしい技法である。

5. マインド

実体の視覚化、色彩、実体の存在のイメージーション、特定の感情など。

6. (魔術的) 道具

魔術的な装備は、特定のエネルギー、実体、人物、状況をあらゆる構造的リンクとして機能する、人がつくったものである。魔術道具を繰り返し使用することで、高次のエネルギーがそれに付加され、もはや魔術的な実践により喚起する必要はなくなる。その結果、さらに効果的にエネルギーを活用することができるようになる。

7. 技術的な装置

これらも、構造的なリンクを確立するために用いられる人工のものである。その特徴は、柔軟性にある。魔術師が選ぶいかなる構造的リンクも任意の配置により確立する可能性があるわけだ。これらのデザインと外見は、様式によっている。典型的な例としては、ラジオニクス装置がある。別の例としては、目的とする特定のターゲットとエネルギーにつながるためにセットする祭壇があげられる。

8. 論理的概念 (数、アルファベットなど)

人類が数や文字を使いはじめたときには、つねに、それに魔術的な意味を付してきた。魔術的なアルファベットと数霊の象徴体系がよい例である。

等価構造体の設定

抽象化、秩序化、一般化という人間の特徴により、魔術的なヒエラルキーが確立してきた。

多くの神話はその好例である。それぞれの神々は、特定の機能をもっている。その神々には、特定の舞踏、シジル、色彩、儀式などによって接触することができる。そして、神々が魔術師の命にしたがう。中世のグリモワールは、凝縮した神話であり、組織化された宗教の魔術実践ではできないようなことを魔術師に提供することを目的として

いる。このようなグリモワールのなかのそれぞれの実体が、それを呼ぶためのシンボルと、野蛮な言葉（言語ではない音）をもっている。

より進歩した文化においては、神話は、占星学体系と関連している。この場合、照応のシフトがおこったのだ。つまり、直接的な環境における自然現象と神々との照応から、エネルギー傾向を発生させる惑星の力との照応へと移行したわけだ。

アルファベットの確立は、別の発達である。それぞれの文字に特定の意味が付されている。原始的な論理が、形而上学的なリアリティに同調することで、真の象徴体系としてみなすことができる数セットの等価構造体が、うまれてくる。これらの象徴体系のなかでは、その各要素の位置が、他のすべての要素との関係において、絶対的な重要性をもっている。このようなアルファベットのセットが、占星学体系と関連する場合には、すべて、真の象徴体系の基礎を見いだすことができる。

このような等価構造体のセットは、通常、前述したような特定の構造を確立するための多くの様々な技法と関連している。例えば、ある神について言えば、そのシジル、名前、唱えるべきマントラ、色彩、金属、惑星、文字などがそれである。

優れた魔術的ヒエラルキーは、すべてを包含している。ここまでに、優れた魔術体系は、発生を意図するいかなる傾向とも結びつく柔軟性をもつべきであるということをお話してきた。宇宙的なラジオニクス装置（占星学的な獣帯）のなかの要素は、自然のヒエラルキーをあらわしている。生命の木の10のセフィロトは、同様の柔軟性をもつ抽象化のシステムをあらわしている。元素の周期系と関連している18神聖フソルク・ルーンは、創造的エネルギー体系と結びついている。

ほとんどの宗教、神話体系は、これらの基準を満たしてきた。魔術体系の等価構造体群が、基本的人間体験と関連しているならば、魔術作業において利点がある。これらは、感覚体験の様式であり、思考と交流の確立された技法である。グループ内、また、環境との社会的に確立された相互作用の様式のようなものである。

まとめ

未来魔術師にとって、価値ある魔術的ヒエラルキーを選択することは、重要である。このような選択は、宗教的なシステムによって要求されるような一度かぎりの誓約である必要はない。未来の魔術師は、特定の魔術的ヒエラルキーは、世界のエネルギーを分類整理するためのひとつの方法にすぎないことをよく理解しているからだ。であるから、できるだけ、多くの等価構造体に慣れ親しむことは、有益であるわけだ。これにより、世界のエネルギーにアクセスするための広範な選択肢を手にいれることになる。

プラクティス#35：ラジオニクス装置と自分の部屋の写真（ポラロイド写真）を用いることは、選択した特定のポイントへアクセスする「マントラ」を発達させる。次に、同じ技法で、太陽のエネルギーに接続するためのマントラを発達させる。そして、両方のマントラを唱え、パートナーに部屋のなかでエネルギーをチェックしてもらう。

プラクティス#36：シンセサイザーとラジオニクス装置のスティック・パッドを用い、最初に場所、もしくは、ターゲットのサウンド・ピッチ、あるいは、コードを確立し、次にエネルギーのピッチやコードを確立する。プラクティス#35と同様のことをシンセサイザーで演奏することで行う。

プラクティス#37：場所、もしくは、ターゲットとシンセサイザーで構造的なリンクを確立する。そして、その場所への伝達を目的とする惑星のエネルギーをあらわす魔法陣をもちいる。

©Karl Hans Welz, 1995

MAGIC OF THE FUTURE

AN INTRODUCTION TO THIRD
MILLENNIUM SCIENCE OF MAGIC
IN SIX LESSONS

BY

KARL HANS WELZ

Lesson V

Copyright 1995 by Karl Hans Welz
This course may not be reproduced in whole
or in part by any means without prior
permission in writing from
the author. Address queries to: HSCTI,
Box 666 033, Marietta, GA 30066

第5課

エネルギーに関する作業における防御

いままでのレッスンで、魔術テクノロジーの科学的な基礎について学んできた。私達が学んできたことは、主として、エネルギー傾向、もしくは、作用を、それが離れている、いないにかかわらず、ターゲットに向かわせる原理についてであった。生命エネルギーと構造的リンクがその原理である。第4課では、高次エネルギーとそれを秩序化した魔術的ヒエラルキーの基礎を示してきた。また、魔術的ヒエラルキーの要素（スピリット）との構造的リンクを確立する方法についても述べてきた。

「スピリット」という語は、進化してきた。なぜなら、高次エネルギーのほとんどは、人格化することができ、実践的魔術師と交流することができるからだ。もし、魔術師がそのエネルギーに十分なエーテル質料（生命エネルギー）を与えることができれば、高次のエネルギーは、実体として顕現し、魔術師は、それを知覚したり、写真にとることさえできる。スピリットを召喚することは、特定のエネルギー傾向を顕現する程度まで、凝縮しえることを意味している。このような実体は、独自の作用をもつもので、魔術師は、彼らを統御する技法を学ぶ必要がある。これは、電気や生命エネルギーのような物質レベルでのエネルギーの統御にたとえることができる。技術者は、傷つけられないように特定のルールにしたがわなければならない。精妙なエネルギーのコントロールは、アストラルとメンタルの次元で行われなければならない。もし、魔術師が、適切な防御と統制の技術が欠落しているならば、魔術的操作の成功は、疑問となる。もし、スピリットがよく定義され、顕現のための魔術的エネルギー場が比較的弱いものであれば、防御手段が高い必要性をもつわけではない。しかし、このよ

うな場合、目的とされる効力は、比較的ゆっくりあらわれることになるだろう。

防御手段と統制手段は、エネルギーがアクティブな場において起動していなければならない。過去の魔術師は、このプロセスをスピリットの世界に対し権威を確立するプロセスと呼んでいた。彼らは、権威を確立するために数種の技法を考案してきた。これらの技法には、個人的な訓練と、スピリットを統制するエネルギーをあらわす構造的なリンクの使用が含まれている。ただお香をたくことを実践することによっても、防御手段のために構造的リンクを確立することができる。

次にいくつかの防御技法を紹介しておこう。

プラクティス#38 防御円の確立

プラクティス#38A: 象徴の喚起的な意味の探求

次のエクササイズを行います。直径5～7フィート程度の円を床にうえにつくります。チョークで描いてもよいし、単純に、円の形にロープを配しても構わない。それから、もし、できうるのであれば、心を白紙の状態にし、そして、(思考や言葉の干渉がない状態で)床の上の円をみて、得た印象を認識し、それを書き留める。

次のステップは、円に入ることです。最初は、円のなかに座ります。そして、また、心を白紙にして、記録をとり、立ち上がり、ゆっくり一回転し、また、受けた印象を記録します。

ここで行ったことは、論理的な意味を与える思考の干渉がない状態でシンボルの意味に同調することである。これは、基本的な抽象化の訓練であり、それにより言葉になる前の感覚的な意味をえることができるのである。これは、生命体の非常に基本的な体験であり、このよ

うにして得た感情から、魔術において非常に強力な技法を引き出すことができるのである。このような体験により、意識的な思考では簡単にアクセスすることができないにもかかわらず、人間の生活において非常にアクティブなレベルにふれることができるのである。

形而上学者は、円は、世界、完全さ、防御を示すとしている。もし、さきのエクササイズを正しく行えば、円に他の意味があることに気づいているだろう。それは、容易に言葉で表現することができないが、非常にリアルな魔術的な意味をもつものである。さきのプラクティスで、創造の領域との接触をはじめているのだ。

結論として、次のようにいうことができる。シンボルに関する作業を行うとき、最初に心に浮かぶのは、シンボルの論理的な解釈である。円の場合であれば、囲うこと、防御、全体系、世界などがそれである。そのシンボルの第二の意味は、基本的抽象化の結果として引き出されるものである。基本的抽象化は、言葉の干渉なしに感覚的にあらわれるものに関する作業である。円についての第二の意味群は、喚起的な性質をもつものである。

他のシンボルについても、前述したプラクティスを行うことができる。その目的のために理想的であるのは、18神聖フウソオルク・ルーンである。ルーンの体系は、主として喚起的な象徴体系であるからだ。これらのシンボルのエネルギーは、創造のレベルに接触している。つまり、最小の定義しかもっていないということだ。

プラクティス#38B：防御円の確立

床の上に、円を配置する。そして、生命エネルギーをロープに放射し、ロープを基礎として、生命エネルギーの壁を構築する。その壁を感じるか、パートナーにそれを感じてもらおう。そして、その壁を泡のように形成し、それが円の下にも拡大しているようにし、その壁の外

側と内側から壁を感じる。

これは、単なる練習である。生命エネルギーが超空間を通じて移送されることを考慮すると、三次元空間での生命エネルギーの壁は、全く効力的なものではない。しかし、円を描き、力の壁をつくるということは、防御の概念をよく示している。

この概念の拡大に基づき、その「球」の影響力を防御のために作用するように拡大することができる。実際の防御は、超空間まで拡大し、移送に基づいたいかなる生命エネルギーをカットする球となる。超空間を実際に視覚化できる人間は、ほとんどいないが、球や円をシンボルとして用いることで、ほとんどの場合、十分な防御を可能とするものである。

防御球構築の技法については、多くのことを耳にしていることと思う。その技法は、白光、ミラー・システム、他には、ニューエイジのポップ・サイエンス的な数学的な概念を含んだものなど、広い範囲にわたっている。熟達した超空間数学者は、これらのシールドのすべてを問題なく突き抜けることができる。しかし、どこからか手をつけることは有益である。さきほど確立した防御円は、ほとんどのエネルギーに関する作業に有効な防御作用をもっている。これは、円の概念が、多くの喚起的な意味をもっているからである。そのため、私は、円の喚起的な次元を探求する準備的なエクササイズを強調したのである。このエクササイズを今回は、「泡」について繰り返し、あらたな泡をつくりだしてほしい。

また、円は、「空虚」をあらわすものである。あなたが立つ三次元球の内部は、実体の物質的顕現を許すものではないのである。それは、隔離された領域であるわけだ。顕現する実体は、この球の外部でなければならない。より徹底するためには、球をさらに追加の空間次元へ

と拡大する必要がある。これは、防御に距離を加えることになる。

プラクティス# 39 : エネルギーをトライアングルや鏡への限定

さきのプラクティスで、エネルギーを何かのそとに保つことを学んだ。空虚な球の機能のひとつは、エネルギーが顕現できるいかなる物質的なポイントも排除することである。ここで述べるプラクティスは、それとは、正反対の目的をもつものである。それは、高次のエネルギーが容易に顕現できる場をつくりだすことである。また、このプラクティスにより、エネルギーをよく定義された領域のなかに限定することができるものだ。いったん、エネルギーが、顕現するようにされ、よく限定されると、それは、貯蔵所となり、そこからいかなる対象に対しても、エネルギーを放射することができる。円が空虚をあらわすのに対し、三角形は、顕現を許すものである。空間のなかに三角形を拡大すると、三角錐になる。これは、三次元空間のなかでの構造をよくあらわすものである。

プラクティス# 39 A : 三角形の構築

プラクティス# 38 Aと同様に、三角形の三つの角を決定する。それから、生命エネルギーを三角形の上にピラミッドを形成するように放射する。

次に、ピラミッドのなかに生命エネルギーを放射する。EPGを用いて生命エネルギーを放射する。EPGを使用する前に、三角形の内部を事前にチャージしておくこと、最もよく機能する。三角形のエネルギーを感じる。

プラクティス# 39 B : 鏡のチャージ

エネルギーを鏡に放射することで、同様のことを実践する。三角形の内部に鏡をおくのはよい方法だ。

円と三角形の両方のプラクティスともに、高次のエネルギーについて作業する上で、素晴らしい助けになる。円は、エネルギー顕現のポテンシャルを取り去るものであり、実践的な魔術師にとっては、絶縁の装置である。三角形は、その限定された領域のなかにエネルギーを限定させるのに役立つ強力な生命エネルギー場を発生する。視覚化のために用いられる幾何学的な形もとても有益ではあるが、私達の作業においては、二次的な重要性をもつのみである。もし、あなたが超空間数学の概念に根ざしているならば、もはや円や三角形といったシンボルを必要としてはいないのだが、当面は、これらのプラクティスを学ぶことが必要であるだろう。

高次エネルギーの統制

防御の技法、HOE 顕現のためのエーテル基盤確立の技法を学んできた。ここでは、これらのエネルギーを引き寄せ、統御する技法を学ぶことにしよう。エネルギーを引き寄せることは、容易である。特定の目的のために、エネルギーを引き寄せることができる。この目的は、その能力を簡単に解説したものであるかもしれないし、魔術的作業で実際に使用するものであるかもしれない。どちらの場合であれ、エネルギーを統制し、それを退散させる方法を学ぶ必要がある。

視覚的なグラウンディングにより、三角形から、生命エネルギーを取り去ることで、いつでもエネルギーを退散させることができる。三角形のまわりに円（球）を形成し、宇宙のエネルギーの大海にもらすことでもそれを行うことができる。エネルギーとコンタクトし、それに去るように依頼することは、より有効である。これらの場合、未来に用いるために、エネルギーを呼んだままにしておくことは、より容易である。

プラクティス#40：召喚、統制、退去

次に、高次エネルギーの召喚、統制、退去の簡単な技法を学ぶことにしよう。

プラクティス#41：HOEの召喚

次のプラクティスを全く障壁をつくらなくとも安全な方法で行えるものを工夫した。

円をセット・アップする。それから、三角形をセット・アップする。円形のテーブルの上に、三角形を描いてよいし、テーブルの上に、ロープで三角形をつくってもよい。円形のテーブルは、それ自体、障壁の意味を強めるため、とても役に立つ。

次に、三角形の真ん中に鏡をおく。立てることができる小さな鏡が適している。写真用のフレームのガラスの部分を黒いスプレーでペイントしたものを用いてもよい。銀のかわりに黒でペイントした方が、これから行うことには役に立つ。私個人は、普通の鏡で完全に順調に作業を行ってきた。ふたつのキャンドルを鏡の両側に置く。

鏡の正面に実体のシジルをおく。例えば、フランツ・バードンの書にある金星の領域からの精霊 Owinia のシンボルをもちいてみる。これは、実践的な喚起魔術の導入部としては、素晴らしい作業だ。このシジルを緑色で描く。緑は、金星の領域に関連した色である。生命エネルギーを三角形のなかに放射する。そして、その生命エネルギーが、緑色であることをイメージする。このようにすることで、生命エネルギー場に金星的な側面を与えることができる。緑色は、金星のエネルギーの顕現を助けるのである。EPGを用いることで、この生命エネルギーの放射を支援することができる。いったん、三角形が、生命エネルギーで満たされれば、そのシジルに集中しながら、その名前によ

ってそのエネルギーを召喚することができる。これは、アストラル界のHOEと構造的リンクを確立する方法である。三角形内部の生命エネルギーのシフトをみることもできるかもしれないし、突然鳥肌がたつ等によって、実体の存在を感じるようになるかもしれない。

ここで、鏡を見つめはじめてもよい。自分の顔を見つめ、それがいかに変化するかを目にする。この実践の間は、心を無にし、なんらかの印象が得られるのを待つのだ。このような印象は、ビジョンや思考、確信などといったものであるかもしれない。

もし、EPGで生命エネルギー場を構築したのであれば、テーブルの写真をとるのもよい。そのエネルギーがフィルムにうつる場合もある。この種の写真がとれるときには、そのエネルギーは、ある種の形態をとったり、光のようにうつるかもしれない。

プラクティス#40B：HOEの統制

そのエネルギーに対し、権威を確立することができれば、HOEのコントロールは、比較的簡単である。権威を確立するには、多くの方法がある。実体に対し権威を確立する最も有効な方法のひとつに、自己の神性を認識するというものがある。意志、情動、マインド、意識の要素をそろえることによって成し遂げられる。私は、高次エネルギーを統制するために創造の領域からのエネルギーをあらゆる円で作業をすることを好んでいる。これらのエネルギーは、自己と顕現を求めるHOEの間に、混沌に近いエネルギー障壁を確立するものだ。逆に、創造的な力は、エネルギーをHOEに供給することで、HOEの顕現を助けるものである。私が創造的なエネルギーと合一すると、召喚するHOEを統制する素晴らしい鍵を手にしたことになる。ルーン・マスターは、神聖フウソオルク・ルーン、すなわち、世界の18の創造的なエネルギーを学んでいるため、実体をコントロールするのに何の

問題もない。

プラクティス#40C：HOEの退去

退去は、コントロールの一形態である。コントロールの他の形態を
実践する前に、退去の実践法を学ばなければならない。また、エレメ
ントをそろえることによる神との合一、あるいは、自らの神性の認識
は、あなたの最も強力な武器になるはずだ。

まず、EPGをエネルギー顕現のために用いているのであれば、三
角形からそれを取り去る必要がある。生命エネルギーの供給をストッ
プさせるわけである。

次に、生命エネルギーをグラウンディングする。生命エネルギーが、
マインドが与えた方向に従うことを学んできた。生命エネルギーが、
三角形から地中にしみこんでいくのをイメージする。

それから、実体に退去してくれるように話し、その顕現に感謝する
のだ。

高次の場をもつエネルギーのコントロール

多くのプラクティスがこのカテゴリーに属する。何人かの著者は、
あなたが命ずることを意図するスピリットに対して統制力をもつ実体
と同一化するようにすすめている。神性原理と合一することが、最も
有効である。これは、すべての実体が、神の意志に服従しており、私
達は、その神の原理を反映するものであるからだ。いったん、神と合
一し、高次世界と同調してしまえば、その界の住む実体に命令するこ
とができる。意志、情動、マインド、意識をそろえることで、神との
合一を実現することができる。これについて、私は、宇宙意識講座の

なかで教えている。

プラクティス#40Bで述べたプラクティスは、あなたが喚起した実体を統制する高次の場を確立する。私の好きなもうひとつの技法としては、カバラ的体系のすべてのエネルギーをあらわすユニバーサル・ペンタクルを用いるものだ。私は、惑星の魔法陣をユニバーサル・ペンタクルのなかにおくことで、照応する惑星のエネルギーを急速に発生させることができる。そして、そのエネルギーをその支配域に属する実体を統制するために用いるのだ。

多くの古い魔術書には、いくつかのシンボルが描かれた喚起的な円が収録されている。これらのシンボルは、このような円で喚起しようとする実体に対し優位にあるエネルギーに結びつくための構造的リンクである。実際に統制的な位置にある神霊を喚起することなく、その側面を帯びることになる。それは、自らの内にある神霊の一部であり、統制的な力である。それは、外的な力ではない。

このような円を使用する前によく吟味してみることをすすめる。多くの古書には、過失か意図的にか、あやまりが含まれているからだ。記されているスピリットに関しては、別の問題もある。このような書をあらわした人々は、宗教的な情熱をもっていたということだ。現代の魔術師のなかでそのような宗教的情熱をもっている人は、めったにいない。それ故、現代の魔術師は、他の統制技法を用いることが必要なのである。

破滅の脅迫とエネルギーの統制

古代のグリモワールは、もし実体に従わない場合には、破滅が待っていると述べている。これは、実際、リアルなものだ。これは、実体

が、これを限りに世界を消し去ってしまうということを意味しているわけではない。それはただ、魔術師の領域に関連しているアストラル体を失うだろうというだけである。そのアストラル体を失うと、顕現したいという情熱のため、もし、アストラル体は何らかの方法で再構築されなければ、意識の物質界（エーテル界）に顕現する機会をうかがうことになる。アストラル体が破壊された実体は、自然に引き寄せられる潜在的な顕現の領域から取り去られる。自己保存的なスピリットは、そのような影響力を防ぐためのことをするだろう。

これが、ダガーやソード、トライデントを祭壇の上におくことの意味である。これらの道具は、アストラル界を支配するメンタル界に関連している。

いかなるアストラル形態でも粉碎し、世界のエネルギーの大海に分解する素晴らしい道具に、爆裂図章がある。そのデザインは、トライデントを思わせるが、天王星と土星的な性質もいくらか加えられている。ただ、爆裂図章をイメージし、それにエーテル形態を与えることで強力な武器になる。実体が退去するのを拒否したとき、いつでもこの道具を用いることができる。それは、実体に対抗するときはかなり力を発する道具である。

霊的干渉

時として、魔術作業が効力を発揮しないときがある。これには、いくつかの理由があるが、主要な理由は次のようなものだ。

1. 十分な生命エネルギーの力場を確立するのに失敗し、そのため、移送ができなかったとき。

2. 魔術師が、適切な構造的リンクの確立に失敗したとき。この場合も、移送がなされない。
3. 魔術師に、魔術的エネルギーの統制能力が欠落しているとき。
4. ターゲット自体が防御手段によって霊的にブロックされているとき。
5. 霊的な干渉により、障害や生命エネルギーがそらされている場合。

最初の三つのケースは、適切な訓練、技術的な装置、EPGのような適切なエネルギーの供給によって克服することができる。霊的な干渉やシールドイングは、バイパスをかけることで、あるいは、他の技法で克服することができる。これは、霊的干渉の性質を魔術的に認識することが必要で、成功するためには、適切な手段をとらなければならない。

MAGIC OF THE FUTURE

AN INTRODUCTION TO THIRD
MILLENNIUM SCIENCE OF MAGIC
IN SIX LESSONS

BY

KARL HANS WELZ

Lesson VI

Copyright 1995 by Karl Hans Welz
This course may not be reproduced in whole
or in part by any means without prior
permission in writing from
the author. Address queries to: HSCTI,
Box 666 033, Marietta, GA 30066

第6課

実践魔術

この課で学ぶいくつかのプラクティスは、魔術の一部である。そのようなプラクティスをさきの第5課で行ってきたように、科学的魔術の光のもとで検討していってみよう。これらの技法を向上させるために自己の技法を見いだす機会を得ることだろう。さらにエクササイズを行うために、魔術儀式を教えている良書を学び、それをさきの課で学んだような光のもとで検討するかもしれない。

プラクティス#41：タリスマンの作成法

次のプラクティスは、あなたが行うであろう魔術作業の多くを含んでいる。このプラクティスのために準備する多くの魔術道具を再利用することができる。続くプラクティスでは、その魔術道具を利用するため、これをとばさないようにしてほしい。結果的に、いかなる道具もなしで、プラクティスのほとんどを行うことができることがわかるではあろうが。事実、そうできるのであれば、すぐにそうしてもよい。しかし、それでも、このプラクティスの指示にしたがうことをすすめる。これは、未来の作業の基礎になるものであるからだ。

必要なもの：

1. 魔法の杖（ワンド）。ここまでのところでビニールか、レザーでカバーしたものを用意しているはずだ。これは、エネルギーを放射するために使用する。EPGをもちいて、ワンド内部に伝送シンボルをいれておくのもよい。
2. キャンドル2本。蜜ろうキャンドルが望ましい。
3. 水をいれたカップ

4. 香炉
5. 物質界をあらわすもの。水晶や大きなペンタグラムなど。
6. お香。乳香が望ましい。
7. ユニバーサル・ペンタクル。このデザインは、「ソロモン王の鍵」のなかにある。適切な占星学的な傾向をもちたすために用いることができる。その中心に、適切な魔法陣をおくことで、その惑星のエネルギーを構築することができるのだ。セタレポのタリスマンを加えることで、さらにそのエネルギーを強力にすることができる。これらのタリスマンは、ラミネート加工するのがよい。
8. セタレポのタリスマン
9. 七惑星の魔法陣
10. エレメントのポリゴン
11. 魔法のローブ。この魔術道具は、日常的な状況から自己を解放つためのものである。魔術道具には、自動的に特定のエネルギー形態との結びつきをつくるという利点がある。(十分な準備がなされた)魔術道具があることで、自分の意識を行っている魔術作業の特定の目的に集中させることができる。進歩するにしたがい、ローブを使用する必要性はなくなり、他の多くの魔術道具も同様に使用するのをやめてしまうだろう。物質世界における顕現点を必要としなくても、魔術道具のエネルギーと結びつくことができるようになるからだ。
12. 三角形と円をつくるためのチョークやローブ、コード。

準備：

多くの魔術作業と魔術的エネルギーの放射をひとりで行うことになるだろう。それ故、自己の作業を強化するために世界のモデルを用いることは適している。このモデルは、あなたのマインドが、確立する構造的なリンケージを利用する助けとなるからだ。このモデルのなかで、私達は、三領域を区分する。

最初の領域は、あなたの外的魔術領域である。この領域には、操作対象やターゲットへ向ける高次エネルギーと結びついたすべての物体が含まれている。祭壇のセット・アップがそれである。

第二の領域は、構造的リンクを確立した世界の領域である。これには、ターゲットの世界（般化された意味における環境）と使用しようとするエネルギーの魔術的ヒエラルキーを含んでいる。

第三の領域は、マインドのなかで創造する想像的な領域である。この領域は、第一、第二の領域との構造的なリンクである。この第三の領域により、魔術的操作により発生させたエネルギーを心的に導くことができるのである。それは、内なる作業空間であり、他のふたつの領域と絶えずつながりをもっている。この領域のなかで行うことは何であれ、他のふたつの領域に影響を及ぼす。

第一、第三の領域を正しくセット・アップすることは、魔術作業において非常に重要である。これは、このふたつの領域のなかで、生命エネルギーでその作業を活性化する前に、私達の作業要素への構造的リンクを確立することになるからである。不適切な構造的リンクは、私達の魔術作業を歪んだものとしてしまったり、全く効力のないものとしてしまう。

作業の準備するために、次のステップをふむことになる。

1. 自己の浄化。これは、象徴的な作業で、自己を日々のわずらわしいことから解放する象徴的な作業である。入浴などによって行う。ローブを着用する。いくつかの古き宗教の実践者は、ヌードで実践することを好んでいる。

2. どのタリスマンをつくりたいかを決定する。例えば、フランツ・バードンの「魔術的喚起の実践」にある金星の領域からの精霊 Owina の愛のタリスマンを作成してみよう。

3. 祭壇を準備し、ユニバーサル・ペンタクルを祭壇の中央に置き、ユニバーサル・ペンタクルをチャージする。他のすべての魔術道具も同様に行う。一度だけ、道具をチャージする必要がある。第2課で学んだ技法により、生命エネルギーを放射することでチャージする。ペンタクルの後ろに8インチほど離して2本のキャンドルを設置する。キャンドルの左側にカップを、右側に香炉をおく。水晶か、ペンタグラムを2本のキャンドルの間におく、さらに、エレメントのシンボルをユニバーサル・ペンタクルの周囲に配する。

4. 金星の魔法陣をチャージし、ユニバーサル・ペンタクルの中央部におく。

5. セタレポのタリスマンをチャージし、金星の魔法陣の下におく。

6. ロープか、コードを祭壇の上に配置したものの周囲に三角形に配置する。ロープのかわりに、三つの水晶を用いて、その三つをイメージで結びつけてもよい。

7. ワンドで三角形のアウトラインをなぞり、ロープや、三つの水晶の間にイメージにより描かれたラインにエネルギーを放射する。そして、その三角形を底面とした三角錐をイメージする。そしてさらに、祭壇の表面より下にも同様にイメージする。

8. そして、自分の周囲に円形にロープやコードを配置する。自分を包む球をイメージするわけだ。円は、球の一部である。後には、ロー

ブを使わなくとも、円を完全に視覚化できるはずだ。

9. さらに防御を強めるために、ワンドを手にし、空中に四つのペンタグラムを描いてもよい。球の表面にそれが存在しているように視覚化する。さらにふたつ余分にペンタグラムを描くのもよい。つまり、球の上部と底にである。

10. ユニバーサル・ペンタクルの中央部に金星の魔法陣を覆うように、タリスマンをおく。

11. お香に点火する。

12. キャンドルに点灯。

13. 緑色のエネルギーを三角形の内部に放射。ワンドを用いて放射する。ワンドで三角形をさし、さきの課で学んだ放射技法を用いる。

14. 実体 (Owina) を召喚。

15. その実体がタリスマンをチャージするのをイメージする。どのようにイメージするかは、あなた次第である。

16. 実体に感謝し、それに退去するように話す。

17. 三角形の上で、グラウンディングの技法を用いる。すべてのフリー・エネルギーをグラウンディングする。物に結びついたものは、そこにのこる。

18. タリスマンを手にとり、チャージされているかをチェックする。

手のひらを使うか、額から2インチほど離れたところにもってチェックする。

19. 魔術道具を取り去る。

NOTE： EPGを用いて、三角形をパワーアップすることができる。この場合は、ふたつの伝送シンボル（構造的リンク）を使用する。金星の魔法陣と1枚の伝送シンボルをEPGの正面に、もう一枚の伝送シンボルをユニバーサル・ペンタクルの中央におく。そして、EPGからのエネルギーが、三角形ののなかに蓄積されることをイメージする。そして、三角形のなかのすべてのエネルギーが、タリスマンのなかに圧縮されるとイメージする。それから、その強さをチェックする。

プラクティス#42：アブラメリンの魔法陣を用いた魔法の実践方法

この魔術のためには、基本的には、タリスマン作成に用いたのと同じ道具を必要とする。それから、アブラメリンの方陣のなかから、自分の目的に最も適したものを選ぶ。

次のステップをふんで、作業のための準備をする。

1. 自己の浄化。これは、象徴的な作業で、自己を日々のわずらわしいことから解放する象徴的な作業である。入浴などによって行う。ローブを着用する。いくつかの古き宗教の実践者は、ヌードで実践することを好んでいる。

2. 祭壇を準備し、ユニバーサル・ペンタクルを祭壇の中央に置き、ユニバーサル・ペンタクルをチャージする。他のすべての魔術道具も同様に行う。一度だけ、道具をチャージする必要がある。第2課で学

んだ技法により、生命エネルギーを放射することでチャージする。ペンタクルの後ろに8インチほど離して2本のキャンドルを設置する。キャンドルの左側にカップを、右側に香炉をおく。水晶か、ペンタグラムを2本のキャンドルの間におく、さらに、エレメントのシンボルをユニバーサル・ペンタクルの周囲に配する。そして、紙を燃やすための、大きめの金属製の皿を準備する。

3. 自分が選んだアブラメリンの方陣に適したエネルギーを反映している惑星の魔法陣をユニバーサル・ペンタクルの上部におく。

4. 例えば、金星のエネルギーを利用し、金星の魔法陣を用いているのであれば、セタレポのタリスマンをチャージし、金星の魔法陣の下におく。

5. ロープか、コードを祭壇の上に配置したものの周囲に三角形に配置する。ロープのかわりに、三つの水晶を用いて、その三つを想像で結びつけてもよい。

6. ワンドで三角形のアウトラインをなぞり、ロープや、三つの水晶の間に想像により描かれたラインにエネルギーを放射する。そして、その三角形を底面とした三角錐をイメージする。そしてさらに、祭壇の表面より下にも同様にイメージする。

7. そして、自分の周囲に円形にロープやコードを配置する。自分を包む球をイメージするわけだ。円は、球の一部である。後には、ロープを使わなくとも、円を完全に視覚化できるはずだ。

8. さらに防御を強めるために、ワンドを手にし、空中に四つのペンタグラムを描いてもよい。球の表面にそれが存在しているように視覚

化する。さらにふたつ余分にペンタグラムを描くのもよい。つまり、球の上部と底にである。

9. お香に点火する。

10. キャンドルに点灯。

11. ほぼ5インチ角白い紙とペンを用意する。羽根ペンとはどの血のインクやドラゴンの血のインクを状況に応じて用いて構わない。

12. その紙の上に、直径3インチ程度の円を描く。

13. その円のなかにダイヤモンドの形を描く。ダイヤモンドの四つの角が円に内接するようにする。

14. ダイヤモンドのなかに、選んだアブラメリンの方陣を描く。

15. 円のアウトラインとダイヤモンドのラインとの間の四つの空白部分に神の名前であるヨド、ヘー、バウ、ヘーを描く。YHVHと書いてもよい。右上の部分には、Y、左上には、H、左下にV、右下には、Hの文字をいれる。

16. ダイヤモンドの内側、アブラメリンの方陣の外側には、ターゲットの人物の名前を記す。

17. 紙の四つの角にだ液を少しこすりつける。

18. 三角形のなかに紙を入れる。

19. エネルギーを三角形のなかに放射する。

20. エネルギーが紙の上に凝縮するのをイメージする。

21. 第2課で学んだ技法で紙のエネルギーをチェックする。

22. もし必要であれば、満足いく結果が得られるまで、チャージを続ける。

23. 紙を手にとり、2本のキャンドルの1本の炎のなかにいれ、火をつけ、準備した金属の皿のなかで燃やす。

24. 紙を燃やした後に、儀式を終了する。エネルギーを伝達し、その力は、既にそれ自体で機能するため、さらに儀式を続ける必要はない。このプロセスは、郵便ポストに手紙をいれることに例えることができる。あとは、郵便局がその面倒をみてくれるだろう。残りのエネルギーをグラウンディングし、魔術道具を取り去る。

NOTE: EPGを用いて、三角形をパワーアップし、アブラメリンの方陣をチャージすることができる。この場合は、ふたつの伝送シンボル（構造的リンク）を使用する。1枚の伝送シンボルをEPGの正面に、もう一枚の伝送シンボルをユニバーサル・ペンタクルの中央におく。そして、EPGからのエネルギーが、三角形のなかに蓄積されることをイメージする。そして、三角形のなかのすべてのエネルギーが、方陣のなかに圧縮されるとイメージする。それから、その強さをチェックする。

プラクティス#43：人物の浄化（浄霊）

人を浄化することは、魔術師にとって標準的なプラクティスである。多くの理由から、浄化が必要となる。魔術実践にかかわっているが、まだ、高次のエネルギー（「スピリット」）に対して、権威を確立していない人物の場合、憑依されることがある。優れた心的能力をもつスピリットは、恒久的に顕現することを求める。この過程は、しごく当然のことで、「善霊」であってさえも、極めて自然なことである。それが、天使であろうと、悪魔であろうと、いかなる実体にも憑依されないようにすることは、好ましいことだ。神性を宿す人間は、いかなるときでも、コントロールするように、うまれついているのであり、天使や悪魔やチャネリングするような存在に憑依されることは、人間の性に反することであるのだ。結果的に人類は、これらの存在から自由になりたいという欲求をもつ。このような憑依は、様々なかたちで生じる。時として、一時的な憑依は、魔術作業を効果的に行うために用いられる。通常、一時的な憑依により作業する人物は、それを行う前に防御手段を講じている。多くの伝統的な宗教儀式には、一時的な憑依を含んだものがある。チャネラーの多くは、憑依の危険を理解していない。さらに、彼らは、自らを守る方法を知らない。「白光」による防御では、アストラル界にあり、物質界への顕現をもとめる熟達した存在に対しては、十分なものではない。憑依が生じる別のケースとしては、その人物に実体を憑依させることもある。マイルドな形態での憑依は、人の継続的な否定性にある。このような態度は、否定性の維持にのみ興味をもつ実体を構築する。これは、その実体の生命が、人の否定性からくるからだ。その人が、この状態から自然にぬけでることができなければ、憑依が問題になる。このような場合、浄霊が必要になる。

浄霊は、様々な方法で行うことができる。自己浄霊が可能な段階ま

で、強くなっているかもしれない。別の方法としては、憑依している実体を攻撃し、破壊するか、取り去るという手がある。これに近い方法として、破壊的なエネルギーをその構造的リンクに接続することで、実体の構造を崩壊する技法がある。最後に、憑依している実体を排除するためにより強い実体を用いることもできる。別の方法としては、聖職者のエクソシストの方法がある。憑依している実体が、その聖職者が属している宗教のエグレゴレ（神）におきかえられるわけだ。

私が次に述べる浄霊法は、実践者が十分に実体を統制できるレベルにあるということを前提としている。そうでない場合には、実践者が、憑依されるかもしれない。

もし、このタイプの浄霊を行う場合には、第2課で述べた生命エネルギーを導く技法に熟練していることが必要だ。

爆裂図章を十分に視覚化できるのであれば、それも助けになる。それは、あなたが導くどのような種類の実体をも破壊するものであるからだ。もし、それを実体に向かって行使するならば、その上部をその実体に向ける必要がある。

人を浄霊するためには、その人物を泡につつまむことから始める。この泡は、その人から2フィートぐらいの広がりをもつようにイメージする。

次に行うことは、その人の中心部、太陽神経叢の部分に意識を集中し、そこから、ゆっくりと泡を拡大していく。この泡に爆裂図章を点在させても構わない。この手順により、それと外部の泡との間に位置しているすべての実体が泡にふれ、死ぬようなことになる。泡をどんどん拡大し、外側の球に到達するまでにする。

単純に否定性を浄化するという方法もある。多くの実践経験を積んだ後でのみ、さらにヘビーな浄霊を行うことができるようになる。

構造的リンクの体系についての紹介

ここでは、いくつかの魔術技法とそのしたにある象徴体系を紹介しておきたい。さらなる研究と作業のために、いくつかの体系を選び実践することになるかもしれない。私が個人的に作業してきた体系をいくらか強調することになるだろう。もちろん、これは、あなたが私と同じ体系を実践すべきだといっているわけではない。

魔術体系により、すぐに使用できる魔術的ヒエラルキーを手にすることができるという利点がある。ヒエラルキーの各要素が、特定の属性をもっている。このような体系で行うことができることは、望むいかなる目的のためにも、その要素を結合させることができるということだ。

いかなる魔術的ヒエラルキーも全く使用しない魔術テクノロジーの技法も存在する。これらの技法を使用する魔術師たちは、高次エネルギーへの構造的リンクをつくりあげることには慣れている。これが、作用するのは、精妙な世界の柔軟性によるものである。事実、知的に構成されたいかなる体系も、これらの世界の一部をなすエネルギーとのつながりをもたらすことになる。いかなるシンボルの配置であれ、熟達した魔術師は、このようなつながりを確立することができる。

1. 直接的構造的リンク

最初に、象徴体系ではない、いくつかの技法を紹介した。HOEとの直接的な構造的リンクを確立するために魔術師が使用している技法がある。この技法は、無限の柔軟性をもつという利点がある。魔術師は、いかなる目的とする傾向でも公式化することができ、照応するH

OEをもたらすための構造的リンクを確立することができる。このような技法に、いかなる魔術エネルギーのヒエラルキー、神話、宗教の「秘密の知識」も必要ない。

1. 1. ラジオニクス

ラジオニクス装置の核は、電氣的な部分によって、多くは可変抵抗器とコンデンサーによって、機能している。これらのパーツは、相互に接続され、個々の数値をダイヤルでセットすることができる。ステイック・パッドやペンジュラムの助けでダイヤルをセットすることができる。ターゲットに心的に集中することで、構造的リンクを確立することは、この作業において必須のことである。

ラジオニクス装置により、望むいかなるものとも、構造的リンクを確立することができる。ダイヤルのセッティングは、「レート」と呼ばれている。

ラジオニクスの操作者は、ラジオニクス装置の回路図によっても、もしそこにレートが記入されれば、装置自体と同様に、構造的リンクを確立することができることを見いだしてきた。既に、構造的リンクと等価構造体についての理論を学んできているので、なぜこのようなことが可能のかを理解できるだろう。

現代の研究者は、基本的なラジオニクス装置に、様々な電氣的装置、水晶、ピラミッドなどを加えてきた。このような様々な装置の多くは、象徴的な性質をもつもので、ラジオニクス装置の効力を高めるために、また、容易に特定の方向に向けるために多くの時間が費やされてきている。出力を増大させるためにアンプを、テレパシーの伝達能力を高めるためにトランシーバーを、パワーを強めるためにヘルメットを使用するといったことは、そのよい例である。構造が、超空間をとおし

て伝達され、強い生命エネルギー場がこのような伝送を容易にするということを理解している魔術師にとっては、ほとんどのアンプ装置は不必要なものである。EPGがあれば、生命エネルギーのアンプ装置は、時代遅れなのである。他の象徴的な装置も、操作者がその用法さえ心得ていれば、既にシンプルなラジオニクス装置に含まれているのである。

ラジオニクス装置にいくつかのアタッチメントをつけることで、操作者がさらに容易にレートを見いだす助けとなる。二台のラジオニクス装置をEPGとともに用いることで、そのようなことが可能になる。現在、私達は、操作者がより容易にレートを見いだすことができるように、さらなる技法を発展させている。

私は、ラジオニクス装置を普遍的な魔術的シジルとしてみている。欲することを記述し、その希望に照応するセッティングを確立する。このセッティングにより、目的とする傾向を発生させる高次のエネルギーと結びつくのである。

基本的なラジオニクス装置としては、RAD2000がある。

1. 2. 自分で作成する魔術シジル

最近、魔術師が、求めるものを正確にシジルにするいくつかの技法が流行している。このような図形を作成するためには、様々な技法がある。いくつかのものは、文字を結合させ、魔術的なシジルにするものや、シンボルやデザインを利用するものなどがある。

1. 3. サウンドのピッチ

サウンドのピッチは、ラジオニクス装置のセッティングに似ている。ダイヤルのかわりに、何台かの周波数発生装置を使用することができる。願望を記し、照応するHOE、あるいは、ターゲットとの構造的

リンクを確立する周波数パターンを設定するわけだ。音の周波数をEPGの内部コイルに向けることで、より強力なリンクを確立し、より容易に目的とするターゲットにHOEを伝送することができる。

1. 4. マントラ

音の周波数やラジオニクスのレートと同様に、力の言葉を発生させることができる。多くの「秘密の力の言葉」は、このような起源をもつものである。このような言葉を「秘密」の力の言葉であると考え人は、等価構造的なリンクの基本原則を知っている魔術師であれば誰でも同様のマントラを発生させることができるという事実気づいていないのだ。HSCTIは、容易にマントラを発生させることができるマントラ・ジェネレーターを準備している。マントラをセットし、特定の実体を引き寄せるために、あるいは、目的とするターゲットとつながりをつけるためにも用いることができる。

1. 5. 文字の方陣

有名なアブラメリンの魔法陣もこれに含まれる。いかなる言語においても、「ルート・ワード」は、基本的な願望と関連しているかもしれない。他の文字は、多かれ少なかれ、規則的に配される。その結果、願望は、より特定のものになるのだ。HSCTIのマントラ・ジェネレーターを使用し、自分自身の特定の目的に使用することができる自分自身の文字の方陣をつくりだすことができる。

1. 6. 構造的リンクのシステムとしての象徴体系

象徴体系は、世界についての作業を行うとき、いくらかの洞察を与えてくれるという利点がある。この点において、これらは、神話に似ている。ほとんどの象徴体系は、天空における惑星の動きのような私達の環境にある観察可能な要素と関連している。私は、占星学の体系を宇宙的な性質をもつラジオニクス装置と考えている。HSCTIは、

同様の構造の装置を提供している。この装置により、いかなる占星学的な傾向も発生させ、それをいかなるターゲットにも向けることができる。

象徴体系は、固有の構造をもっている。もし、象徴体系の構造とその要素のひとつの意味をしっていけば、そこから他のすべての象徴の意味を引き出すことができるものである。

特定の目的のためには、象徴体系の要素を結合させる必要がある。これには、象徴体系の構造について、徹底的な理解が必要である。

いくつかの象徴体系は、人工的な性質のもので、それに対し、四大エレメントや四界、占星学的な象徴体系、神聖フウソオルク・ルーンのような他のものは、私達の環境における真のエネルギーと関連している。神話は、私達の心理的、霊的環境と関連している。占星学的構造と照応している神話は、最も役に立つものである。

私は、あなたが人工的な象徴体系とかかわることをすすめない。なぜなら、そのような人工的な象徴体系のほとんどは、単なる象徴の寄せ集め以上のものではないからである。さきに説明した直接的構造的リンクの個人的な技法によってより容易に目的とする影響力を発生させることができるはずだ。この事実から、有益である以上に、贅沢な「体系」の研究ができるはずだ。もちろん、多くの「神秘学校」は、このような象徴の寄せ集めを「秘密の知識」として、疑うことを知らない初心者には、教示することを好んでいる。初心者には、通常、他のことを学ぶことが禁じられているので、そのような「秘密の知識」が、存在するシステムのなかで最高のものであるとまもなく確信するにいたるのである。いま指摘したことをもう一度繰り返しておこう。伝統は、創造的なマインドを殺してしまう、と。

2. 1. エレメントと諸界

優れた体系は、魔術的な世界をよく地図化することができる。魔術師がつながりをもつエレメントの精霊は、特定のエレメントの世界での象徴的配置であるように思われる。それを占星学的、ルーン的なガイドラインにしたがって分類することができる。

2. 2. 神聖フウソオルク・ルーン

18文字のルーンは、元素の周期系と結びついている。そして、創造的領域のエネルギーと関連している。この18文字のルーンに照応しているエネルギーは、定義されたものというよりは、定義する性質のものである。他のルーンの体系は、単なる象徴の寄せ集めである。リーディング（うらない）を行うためには、問題はないが、魔術のために、創造的エネルギーの領域と結びつけてはくれない。

2. 3. 占星学的体系、カバラ、タロット

これらは、よく定義された（創造された）体系である。これらのエネルギーは、私達の太陽系の構造と照応している。私は、この三つをまとめて扱っている。なぜなら、カバラの体系とタロットは、占星学的シンボリズムから引き出されたものであるからだ。カバラは、獣帯をあらわしたものであり、その数の構造は、太陽系にとって価値ある数の関係から引き出されている。

私は、あなたが占星学のよい入門書を購入することをすすめる。それで、惑星、ハウス、星座の意味を学ぶことができる。また、パピュスの「ボヘミアンのタロット」も価値ある本だ。このなかで、パピュスは、タロットの構造を説明している。タロット・カードの意味については、イーデン・グレイの本をどれか読むことをすすめる。タロット・カード自体については、ライダー版を使っている。理由は、それが、カバラの象徴体系を正確にあらわしているからだ。もし、占いの

ためのみに、タロットを用いるのであれば、市場に出回っている何百のデッキのどれを選んでもよいだろう。

2. 3. 「黒いワタリガラス」

これには、30の実体と20程度のタリスマンが収録されている。ファウスト博士の本は、ドイツの古典的なグリモワールである。私は訓練を受けていない魔術師には、その使用をすすめるものではない。

2. 4. 神話

多くの魔術的な体系は、宗教を基礎としている。宗教の神々は、高次のエネルギーとの構造的リンクのヒエラルキーを形成している。ブードゥー、サンタリア、神道、シャーマニズム、ウィッカ、チベットの宗教などは、その例である。

まとめ

この講座は、魔術実践に科学的と思われる基礎を与えるために、企画された。これをしっかりと学べば、この科学作業に深い理解を得て、魔術実践において失敗することはなくなるであろうと思われる。

現在、私は、さらに深く研究しようとする上級の学徒のための講座を準備している。